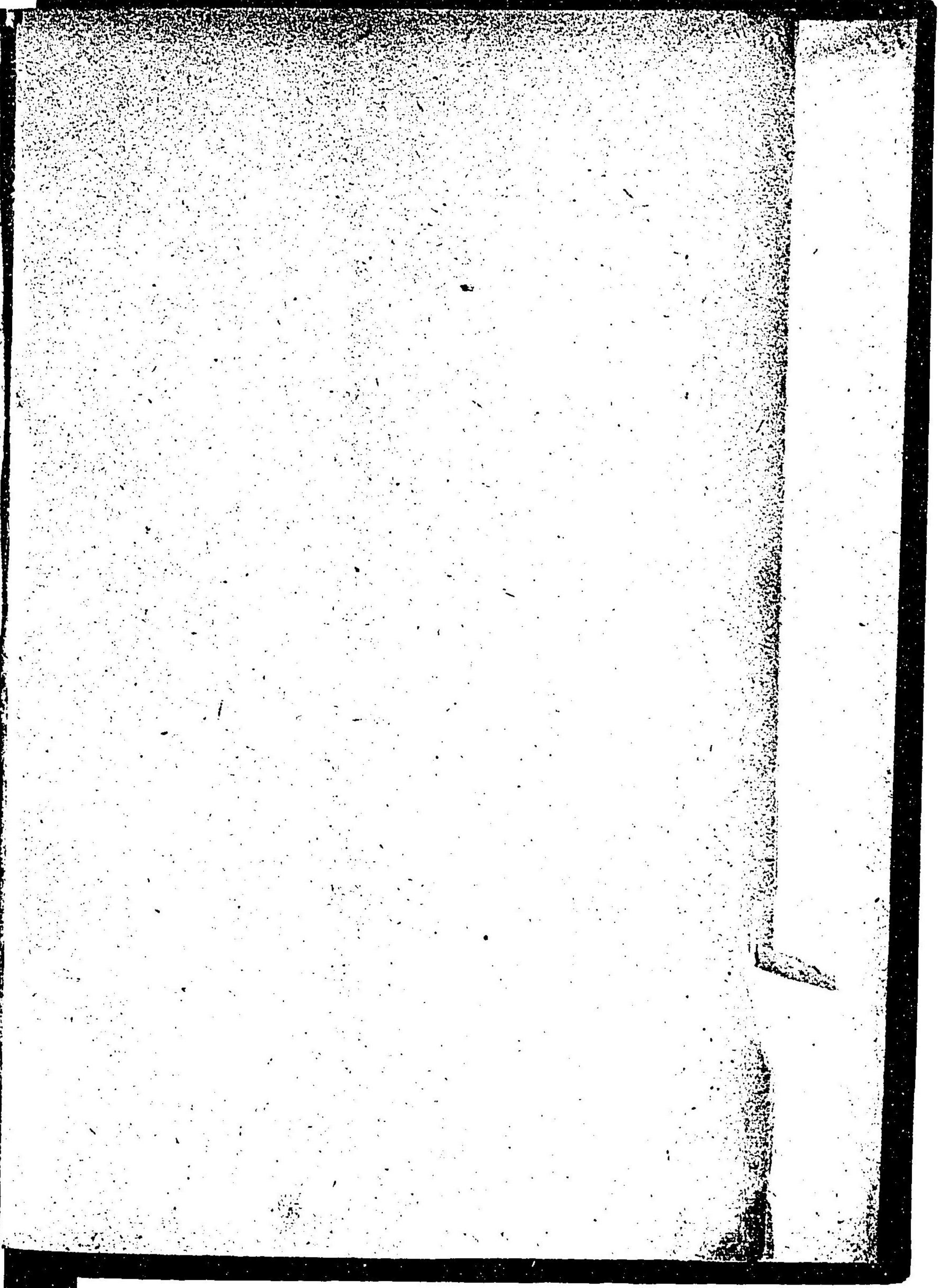


99
84



露西亞觀察談(一名恐露西亞征伐)目錄

一、緒言.....十一

二、露國と國民.....十一

三、露國民の性質.....十一

四、露國民の性情.....十九

五、露國農民の情況.....二十六

六、露國農民の風俗.....三十二

七、露西亞の軍隊.....三十九

八、露國兵士の生活.....四十三

九、那薩克兵.....五十

十、露兵の滿洲より.....五十九

十一、旅順口の防備.....六十二

附 錄

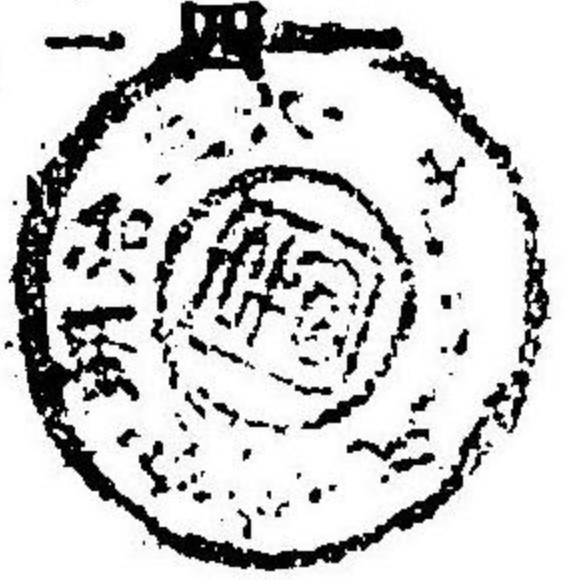
一、黑鳩公來る.....六十五

二、近眼氏の露國評.....六十六

三、村田將軍の露國陸相談.....六十九

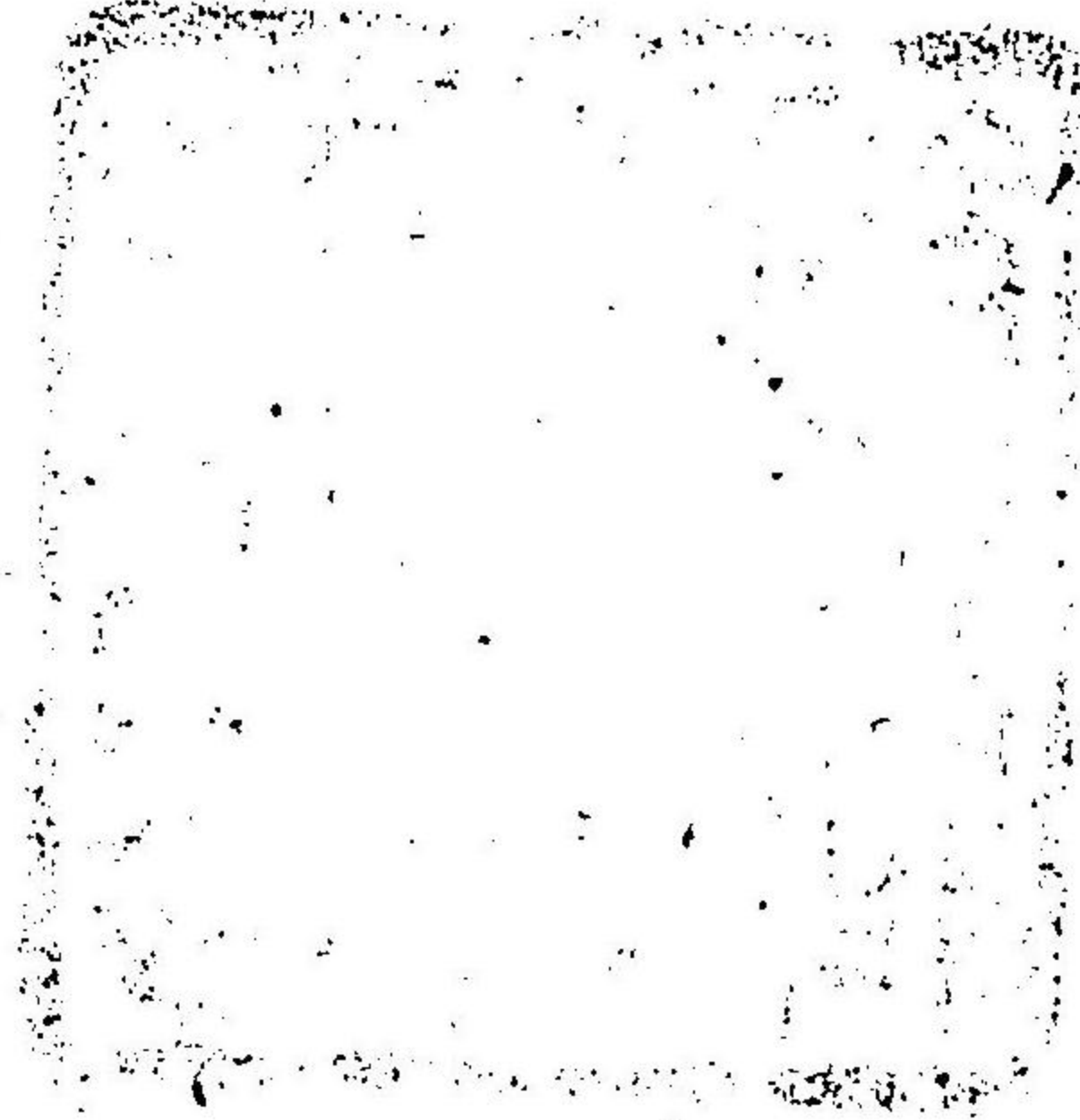
四、東北地方と黑鳩公.....七十二

五、滿洲問題と七博士の意見書.....七十八



談 察 觀 亞 西 露

圖 之 談 察 觀 亞 西 露 士 兵 老



露西亞觀察談

(一名恐露西亞征伐)

緒言

一

老兵士

世間の彌次馬連が東洋の風雲益々急になつたとか何とか云ふて日露開戦に就き是非の議論を闘はずと雖も一体誰が分らぬ話でないか、征清の役以來我帝國が俄かに多数の陸兵を養ひ多数の艦艇を作らぬが出費に對し政府は國民に強ひ國民は政府の言を聴き幾年塗炭の活を忍びたる者畢竟何の爲かを一考せば今更開戦の是非に嗚々を費のす要なからん凡そ嘗膽臥薪なる語は復讐を意味し當時の政府及國民が常に唱道しつゝありし所にあらすや、然らば即ち我陸海軍の擴張せられたる所以の目的洵に知り易き者ではないか、已に陸海軍備擴張の目的を解釋し以て深く東亞現時の狀勢の趣く所を視來ならば吾人國民としての感慨果して如何不や、見よ彼の露國は今や其雙翼を伸して滿洲の野に現はれ居るではないか露國は近く我眼前に出現して居るのである、思ひ起せば明治二十九年滿洲を引上の當時吾人の間に「今より七八年の後を待て」との警語が盛んに傳へられてあつたが

緒言

言

丁度今年は其七年目である、由來斯の如き事は能く事實として現はれた事がある、而して我國の外政は能く七と云ふ年に多い様だ、臺灣征伐は明治七年で朝鮮事件は明治十七年だ、ソレから日清戦役は即ち明治廿七年であつたヌルと明治三十七年が我等の有卦に入る年であらうか、ナーニ東洋の風雲が急になつて雨とならうか風とならうか將又雷とならうか何も恐魯々々するに及ばぬ事だ、若し雨となれば傘あり風となれば防風器あり雷となれば避雷器もチャンと準備してゐるではないか、随分多くの人の中には恐魯々々する者がある様だ、併し恐魯々々する者には録な者があつた例がない、先づ大概は臆病者、懦弱者、猪倭者、狡鈍者等で膽玉の据つて居らぬ者等であるから少しも取るに足らぬことではあるがワイ／＼騒ぐのが五月蠅のじや、併し露國も本氣に戦争積りならば今少し確實に戦争て貰はんと樂かないデ、例の露西亞根性の手段で行き掛けの駄賃取りではあるまいかと思ふのだ、露國は素より戦を好まぬ事は吾人能く之を知る、然れども彼が戦争を好まぬからとて我亦之に隨ふて一時の小康を貪らんとする様なことあらば彼の重税を拂ふを甘んじて軍備を擴張せる我國民の愛國心を奈何、東洋の平和を永遠に繋ぎ東洋の

商業を益々發達せしむると共に我帝國が世界に於ける文明の貢獻者として永久の福利を収むる手段は唯今日に於て施すべきのみだ、であるから親方連中は恐魯々々せず茲一番確實りやつて貰たいのだ。我等に彌々御渡申候と言へば我等は喜んで引受け又候滿洲に出で豚狩りを始め上は 叡慮を安んじ奉り下は愛國心深き四千万余人の同胞に報へんとする決心だ、夫は唯露西亞を買ひ冠りて居る者が恐魯々々するのであるから今自分が露國を觀察した處と又西歌羅巴入即ち露國以外の人が觀察して居る點とを咀嚼玩味して魯國の軍隊はドウいふ者であるか露國人民の情況は如何であるかを話して見よう、歐羅巴で露國人以外の人と申すのと重に獨逸人を指していふのだ、獨逸は露西亞と界を接して今では讐敵も畜ならず兩國共に等しく兵備を嚴にして相互に國事を偵察して居るから獨逸人の露國軍隊に就きて批評した言ぢうは大に參考になると思ふ、

日本てるく露しあが曇る中の滿洲がヤンレあめとなる

* * * * *

二、露國と國民

露西亞は大きいと云ふ事は分つて居る話で、世界第一の大國であつて歴史上今まで現露西亞程大きな面積を有して居る國はあるまい、随分夫は希臘とか羅馬などは版圖を廣げて歐羅巴亞細亞に廣がり頗る面積を多くした事がある、又方今英吉利は東西兩半球に版圖を持って大きな國ではあるが、ずっと陸続きで一ツに纏まつた邦土を持つて居る者は露西亞を置いて他に決してないのだ、面積は三百四十九平方キロ米突、人口は二億以上に達して居る、此露西亞の中で歐羅巴露西亞は主として茫茫たる原野であります、試に地圖を見ても何もありません、唯だ筋が引張つてあつて汽車の通る鉄道や町村が散在してあるだけで山もなく河少く極く平坦な土地である、又「ウラル」山を越へて東西伯利亞までは原野が多いので、うして漸く東へ來ますと即ち日本の方へ近くなる程山や河が多くなりまして全く東洋の地形に變じて參ります、東西伯利亞は所謂露西亞の地形でありまして一望千里何も目を遮るものがなく茫茫たる原野であります、サテ歐羅巴露西亞の境界は御承知の通り西は獨逸に界し西北は諾威、瑞典に界し南は黒海の方まで廣がつて居ります、又東南方は亞細亞印度に於て英吉利と界して「トルキスタン」の方まで這

入り込んで居ります、但し正系の露人は露西亞の中央の部分に居りまして大露西亞人と云つて居ります西北方には「フィンチン」人が住んで居り、東海から獨乙に界した方面には「リトラエル」人存在し西方には「ポーランド」人、南部及び東南には「タターレン」人が居ります、斯の如く露西亞人を中心として種々様様の異人種が歐露を包圍して居りますから純粹の露西亞人は全人口の四分の三を占めては居りませうけれども其中にも大露西亞人小露西亞人白露西亞人の三種に區別されてあります、大露西亞人は「モスコ」を中心として露西亞の中堅に位地して是れが露西亞の幹部であります今の政治を執つて居る者や勢力のある人民は即ち此大露西亞人でありませう、小露西亞人は同じ人種であるけれども全く氣風性情を異にし人情風俗言語も違ひ主として「コーカス」に近い方に住んで居ります「キユーフ」は「其首俯」である、夫れから東海岸の東西の方には白露西亞人が住して「ポーランド」人と境を接して居ります、斯く純粹の露西亞人が三つに分れてありますが孰れも一致同体の者でなくして頗る相反目して居るのです、先づ大露西亞人が第一に勢力があつて小露西亞人は頗る壓制を受けて居る、小露西亞人と大露西亞人と云へば決して

中が宜くない併し小露西亞人は人口も少ない爲めに壓制を受けて出版物等の自由は全く缺いて居るのです、それで小露西亞人と白露西亞人は千六百万人を算します、其外に前にも申した通り露西亞には種々の人種が棲息して先づ第一「ポーランド」人種が六百万人此「ポーランド」人は御承知の通り今は露國の配下に属して露西亞政府の壓制の下に屈從して居りますけれども露西亞とは全く體敵でありますから暇さへあれば反旗を翻へせうと云ふ事は始終彼等の心中を脱しないのです、で嘗て「ニコライ」第一世が言はれた事がある曰く「露西亞が泣けば「ポーランド」人は喜ぶ」と以ていかに「ポーランド」人と露西亞人の嫌悪なることを知るに足りませう、獨乙は是等の關係を能く知つて居りますから始終之を利用して一儲けしやうと狙つて居ります、又地形上「ポーランド」はズット獨逸國境に這入つて居りますから一朝獨逸と露西亞と戦争でもあつた時には此「ポーランド」人は果して何れへ付く者でありますか大に熟考を要する事でありませう、何にしても吾々が歐洲にありて「ポーランド」人に遇ふと彼等は口を極めて露西亞を悪く言ふて私も旅行中度々「ポーランド」人と一所になりましたことがありますが彼等は直ぐに露西亞を罵つ

て何故日本人は日清戦争の時に三國干渉に屈したのでせうか、あの時に貴國が一躍したならば浦鹽斯德は朝敵前に略取し得たのである、あの時分には浦鹽斯德近傍の屯在兵は未だ「スナイデル」銃を持つて居つた位である日本の此舉に出でざりしは實に惜みても余りあることなりなど、語るは通例でありました、換言すれば露西亞に害のある事を却て喜ぶと云ふことは「ポーランド」人の現状であります、第二には獨逸人が深山居りますが總計二百万人と申します彼等は露西亞國內に棲息して謂ふべからざる壓制を受けて居りますが何の爲めでありますか殆んど分りませぬ、第三「フィンチン」人は三百五十万人是も露西亞の壓制の下に怨を呑んで居ります、近頃露西亞は一体に此壓制の度を高めて最初には稍々自由を興へた様でありましたが「フィンチン」人「リタウエル」人に對しては近年漸次壓制を増しつゝあります、例へば今まで小學校に於ては各其自國の言葉を以て教育を授けることを許してありましたが既に獨逸國界に接近したる州或は「フィンチン」の如きは近年に至りまして自國の言葉を以て小學校教育をなすことを禁じられました必ず露西亞語を以て小學校の生徒に教へると云ふ頗る壓制な制度を敷きました、露西亞政府の考へで

は漸を以て是等の人種を露西亞化せやうと云ふ政策を取つて居るのでありませうけれども實際は全く反對で露西亞化すると云ふよりは寧ろ怨を呑むと云ふ方の感情が却て増て來て益々心を獨逸人に寄せて居る様な有様であります、第四露西亞全國には二百七十七万余人の猶太人が散在して居りますが此等の人種は國家的觀念などは毫もなき動物でありますから製糞器としては用ゆる處ありますから知らされども國家の事件などには寸毫も役に立たぬのみか却て邪魔になる動物であります、其外露西亞の東南方に住で居る人種は三百万人許で「マホメット」宗を信じて居る「トルコ」人「ターレン」人「モンコーレン」人等であります、其外に歐羅巴露西亞には數限りのない程違つた人種が住んで居ります亞細亞の西伯利亞印度地方には又種々なる人種が居りますから露西亞は一つに纏つたる人種より成り立つて居るのでなくして各固有の歴史文學言語を持つて居る數種の人種から組織されて居るのであります、デ日本を批評する歐人の言ふには「日本は小なりと雖も五千万の同胞悉く言語を一にし歴史を共にし万世一系の聖天子を戴き四方繞すに海を以てすユンナに纏つた國はあるまい吾々は非常に好ましい」と涎と體と涙を一同に流し

て居ります、露西亞は面積から言へば馬鹿に廣い國であるが廣い割合に人間が至て少くないので漸く一平方里に千人位の比例であるから歐羅巴露西亞では軍事上不都合が多くして一朝事あつた時に軍隊を一ヶ所に集めるとか豫後備兵を召集することなどに於ては非常に六ヶ敷いのである、加之ならず歐羅巴露西亞と雖も未だ各郡州の交通が充分でありませぬからして何にか仕事をする爲めに一つ處に兵を集めると云ふ事は一大困難な事でありませぬ、爲に地形上露西亞は守勢の位置を取るに最も適當な國であつて功勢を取ると云ふことは極めて困難である否殆んど出来ない國である、外の國へ攻めて行く事は出来ないので唯防禦的姿勢を取るより外に詮方のない國である、又今までの歴史を緜ても露西亞は守勢計り取つては利益を得たが攻勢を取つて勝つた例しがない國である、攻勢に轉じたるるとき例へば露土戦争に於ける如く自分から手を出して大失敗をしたではないか、是は皆國か馬鹿廣いからである『アリキサンドル』第二世は露土戦争の時に出征軍利あらずして後援軍を要する切なるに際し軍隊輸送意の如くならざる時帝は大聲歎じて曰く『露西亞を亡ぼす者は自國の廣大なるにあり』と帝の歎息も故ありと云ふへした、實に露

西亞の馬鹿廣いと云ふことは又大に不利益なる點であります、是等の事實は戦史を研究なされたお方は御承知の處です、露西亞は斯ふ云ふ國柄であり又水陸の交通機關も未だ充分に備りませぬから滿洲に於て戦争を演るなぞは實に無謀も甚しき者と云ふてよいのです、露西亞は唯馬鹿廣い國で且つ種々なる人種から成り立つて居る國であるから國家的觀念などは少しもないが剛愎非道なることは又驚くの外はありません、イザ是より其國民の性質を述べて剛愎非道なる譯を明かに致しませう、

三、露國民の性質

露國民の性質がドウ云ふ者であるかと云ふ事を觀察致しますれば甚だ興味があることでありませぬ、併し馬鹿廣い國で種々の人種が混雜して居ることでありませぬから一般とは申上兼ますが私の聞見致したる處を摘んで述べますのでありませぬから其積りにて御覽を願

抑も露西亞と云ふ國は數百年來亞細亞「モンゴリヤ」人種の支配を受けて居つたので實に二百年前迄露西亞は「タターレン」人から押領されて居つたのであります、御承知の通り「ペートル」大王が出て、漸く「タターレン」人を追ひ退けて茲に始めて他國人の亞細亞人種の配下に立つことを脱したのであります、露西亞は獨立の自由國になつたのは僅かに二百年前の事でありますから其人民の文化に進で居らぬことは考へられることでありませう、我國人の様に數千年前より万世一系の聖天子を戴き五千万人の同胞は異体同心にして忠君愛國心に富強なる國民あれば五年が十年も掛れば世界一の文明國と稱せらるゝ、ことが出来るけれども彼の露國民の如きは種々様々の人種が壓制なる政府の下に在で怨を呑でビク／＼棲息して居る様では三百年が四百年五百年掛つても文化に進む道理はないのである、然し「ペートル」大王が頻りと西歐羅巴の文明を輸入することに努められたので或部分には少しく感じたかは知りませんが其以前は全く野蠻人種であつたのです、夫であるから今でも露西亞へ行て見ると随分舊體を存じて居る「タターレン」人は今尙は帝都「ペーテルスブルク」及び「モスコ」等に多く生息して居るし又「モスコ」に在る舊

露 國 民 性 質

貴族の血は大半「タターレン」の血液と混して居りますから「モスコ」に到りますると東洋へでも來た様な氣が致します殊更家屋の構造や市街の工合なんぢは餘程支那の風俗に似て居ります尤も「モスコ」には支那町と稱して元は支那人が住で居つた町たそうで今尙は存じて居る位でありますから西歐羅巴人が「モスコ」に來ると何もかも珍らしく感ずるのでありませう、

露 國 民 性 質

借て當時「ペートル」大王が盛に西歐羅巴の文明を輸入されたけれども何分にも大國でありますから一人が望んでも國民が其意圖を追ふて行くとは出來まい之れが爲めに下級の人民と上級の政府とは非常なる懸隔が生じまして上流社會は西洋の文明に化し下流は矢張り二百年以前の儘でありますから露西亞は文明國であると一概に見ると大變な間違であります、今申す通二百年前に漸く獨立した國で其前は韃靼人に押領されて居て實に情けない狀況に沈淪して居つた國でありますから「ペートル」大王は自ら和蘭なぞへ洋行して西洋の文明を見て來り又は爲有の士を多く西洋へ派出して熱心に文明を輸入して非常なる手段と壓制とを施して西洋の文明に化せんと汲々致しますたが何分にも大國の人民

十四
 が悉く天子の意の如く進歩することが出来ずして僅に上流社會は風化せられましたが下流社會は毫も風化しないのである、それで上流の人は今日の生活からして衣食住並に實際の工合なずは西洋人と余り變りもないが下流人即ち民百姓に至つてはすつかり變つて居て全く反對に昔の儘になつて居て露西亞へ行て見ると實に驚くの外はありません、露國上流社會の内露西亞の帝系は他國納威から來た人の種子で又『ペートル』大王以降露國の帝室は獨逸人と結婚したから獨逸の血液が多く混して居ります、其他上流社會にも獨逸人種が随分多いのだ、夫はドウ云ふ譯かと云ふと『ペートル』大王が盛に外國の學者や軍人を引き入れて重く用ゐる自分の國の文明を進め様としたのであるから其當時盛に和蘭佛國獨逸人が這入つて來て露帝に勤仕し中には飯化した者も澤山あつて其子孫が今尙は在住して居ますが何れも軍人官吏に多い様であります、此外に第一世奈翁の爲めに全歐土を殆んど蹂躪せられた時代に諸國の亡士共か奈翁の配下に立つ事を潔しとせずして露西亞に逃込んだ者が澤山あつたが遂に露西亞人となつて今では上流に位して居るです勿論其當時の露帝の考へも成べく外國の文明國の人を連れて來たいと云ふのであつたか

十五
 ら浪人共を喜んで抱へたので就中當時の文明國たる和蘭澳太利獨逸等より來た者が多いかつた、サウ云ふ風にして露西亞の上流社會は漸次發達して今の歐羅巴露西亞になつたのであるけれども人民は一向進歩しなかつたのである、デ今以て人民の心には文明の空氣が這入つては居りませぬ、ダカラ一口に言へば露西亞は外貌から見ると歐羅巴の文明國と肩を並べては居るけれども能く分拆して見ると實際の中々西歐羅巴の文明に遠く及ばない否未だ半開國たるを免れぬのである、殊に西伯利亞地方の如きは全く野蠻國と云ふても過言ではありません、今日露西亞政府に立つて政治を執つて居る者は成る程歐羅巴の文明を呼吸した人であるが大多數の國民は矢張り半開國の人民たるを免れないのであるから非常に残念に思ふて居るのです、政府は文明の輸入殖産工業の發達を希望して居るか中々進まないのみならず人民には殆んど分らない有様で商工業共に其多くは獨逸佛國、英吉利人等の手にあつて直ちに露西亞人のやつて居る事は殆んどない位の有様であります、露國に於て商工業を最も盛に大きく行ふて居るは獨逸人であるから獨逸人と露西亞人は非常に親睦してゐるであらうと思への外尤で犬と猿と云ふ様な風で非常に中が

十六
 悪いのである、夫には政治上の關係もありて今日まで随分獨乙が露西亞を僞くらした事もありますから夫等の怨も這入つて居りませうけれども一は今日の生存競争から起つたので獨逸人は智恵があつて内地雜居して居るから工業でも商業でも能く出来るから味い汁は皆獨乙人に吸ばれて仕舞へ露西亞人は何時も其精粕を嘗め或は使役せられて居る様な有様であるから露西亞人の口が乾いて來ると云ふ所から獨乙人を怨むこと益々甚しくなつて來て皆獨乙人の惡口を言ふて居ります、一時は獨乙人を悉く放逐しろと云ふ様な議論も出た事があるそうだ是は今まで獨乙人が露西亞人を馬鹿にしてイチメた結果であるか此邊は余程注意しなければならぬと云ふ事は獨乙有識の人が唱へて居る、益露國民の感情を害するから將來は今までの様ではならぬ能く取扱はなければならぬと言つて居ります、今西比利亞に於ける事業に就て觀察しても露人が獨乙人に數歩譲る事があつて、例へば鐵道敷設の資本は多くは佛國から這入つて居ると云ふ事であるが其技術家測量家などは大概外國人就中獨逸人を備聘して居る、サア西比利亞鐵道落成の後には之を利用して商業上の發達を計り殊に獨逸品を真先に西比利亞地方へ輸入してやろうと云ふ事

十七
 を考へて居る者は獨乙人であります、獨逸人は斯くも早く敏捷に眼を著けて所謂人の禪で相撲を取つて露西亞人などは土儀外に投付る魂膽であるから西比利亞を開拓するは露國人にあらすして獨乙人であらうと思はれます、露國が西比利亞鐵道に大金を投じて西比利亞は勿論滿洲清國の福利を一手に握らうと云ふ精神ではあれ共ドッコイをふ味くは參らぬ虎の革の禪、慾深き鷹は爪が抜るの譬への如く却て獨乙佛蘭西英吉利等の爲めに大勝利を占められ露國は骨折損のくたびれ儲となりはせぬかと思はれます、何となれば露國は無鉄砲に滿洲を好み韓國に手を延すと雖も自由の國民を顧みる時は慄然たることあればなり、露西亞の中流以下の國民は概して馬鹿である無教育である所謂天生の儘にして育つた國民であるから先づ質朴であるお人好と云ふ方である馬鹿である輕薄である情弱である上邊を尊むと云ふ性質である、ウカ／＼して居る夫等の性質からして人の持つ物は欲いと云ふ性質を持つて居る盜根性がある、斯ふ云ふ様な性質は何れの國にも弱點を指摘したらありませうけれども彼の日清戦争の時に私が第一番夏蠅と思ふたのは支那乞食と支那泥棒であつたが露西亞の人民は支那人よりズツト劣つて居るのであります

露國を旅行すると露西亞人は誠に能く他國人を待遇し譬へ百性家へ泊つてもあらん限りの御馳走を出して呉れると云ふが是は慈善心や義狭心及び親切心で出すのではなくて金を澤山取つてやろうと云ふ慾張心からるれ等を當て込んで出すのでウツかりすると法外の金を呉れると申すは常のことでありませう。又客人の身邊に親切らしく來りて居るが是れば客人の所持品を見たがり欲がり之は何んだと云ふて直きに呉れる或は賣つて呉れると云ふは彼國に於て頗る立派な人物にて其下等人物になると何んども云はずに客の油斷を見て盗んで行くのです。私は獨逸から万年筆を買つて之を汽車で使つた所が鐵道の車掌が見付けて賣つて呉れると言ひましたから叱り付てやつた事がありました又汽船に在りし時立派な船長が私の持つて居る水筒を見て賣つて呉れると申込み頼りに欲しがつてあつたか私は嚴しく戒めた事もありません。斯ふ云ふ人物にして斯ふ云ふ卑劣極まる事を申しつてうれで耻辱とも何んども思はぬのであります。露國に在住する日本人の語る所を聞くに露人が使に來ると直ぐ物を持つて行く余程油斷の出來ない者である一寸物を買ひに來ても何か持つて行くと云ふ辭がある之を見付けて叱り付けると置て行つて平氣の平左で何

露國國民の性情

んども思はないのである。彼等は先づ試みに盗て若し見付られたら置て行く見付られぬ時は取り徳と云ふ考なのである。實に幼稚な國民ではあるまいか、

四、露國民の性情

露國人は總て愛郷の念や懷郷の心などか實に薄いのであるから一ヶ所に永住せねばならぬと云ふ念慮がないのである。うれて彼等は此處に行き彼處に移り漂々として歩く事は誠に好む所であるから西比利亞へ移るも滿洲へ來る事も少しも苦と思はないのみならず却て喜んで居るのである。昔露人は一望千里と云ふ茫々たる原野に生れて亞細亞に境する地方にありては牧遊の民と相隣り、相交り遂に自ら其性質を受け彼等亦牧畜を業として生草を追ふ所の牧民となつて居つたから今この露西亞人も亦羊や牛馬を牧して居るから自分の住み慣れた土地を移り換へるを嫌はざる性質を有して居る否業として一ヶ所に居ることか出來ないのである。牧畜を業とせざる露人でも一の郷里を去つて他郷へ移る事は更に意とせざるのみか却て好むて居るのだ、彼等所謂到處有青山と云ふ考へであるまいか漂つて歩く事を好む性質を有して居るのだ、政府が此性質を利用して他

露國國民の性情

人の知らぬ内に其國土を廣め西比利亞なずも露西亞の所有にたつたのは則ち其結果であるのだ、政府の獎勵も多少あるかは知らざれども如何に寒い國へでも移住して露西亞の版圖を擴めたと云ふのは全く此天性があるのに飯因したのである、是れ實に國民一般の性質であるから今日決して現在の儘で満足して居らないのだ、常に南下すると云ふ希望を抱いて居るは勿論北の寒い所から南の暖かい所へ出るのであるから人情上喜しいのでありませうか去りて日本國民の様に愛郷の念に富む國民にあつては其住居を換へることは好まない、日本は三千年來孤島に生息して外の國は寸土も我が有にしない代りに寸地も外人に侵された事もない、露西亞は之に正反對で他人の知らぬ間に西比利亞黒龍江太平洋沿岸まで進んで来て今度は滿洲旅順口韓國へも手を出して居ると云ふ始末である、彼等は常に滿洲々々と言つて滿洲には寶か澤山あり金鐵に富み鳥獸か澤山居るなど、頻りに涎を流して滿洲併呑を企望したのは今に始まつた事ではなぬのだ。露國國民は彼の西比利亞鐵道及滿洲の鐵道か竣工せば滿洲は已れの物たと言つて少しも疑を抱く者がなき有様である、露國國民の理想は外交上の政策となつて事實に現れて來たのだ、

露國國民の愛郷の念に薄くして牧游の心に富んで居る性質は取も直さず露西亞か版圖を擴める主なる原因となつて居るから露西亞は容易の事では侵略主義を止まぬのだ、故に何處までも嚙り付かる、丈け嚙り付き行ける限り進み他人が何んと言ふても頓着なくやるであらうと思へます、露西亞が何故に旅順を占領したか何故に滿洲を占領したか何故に朝鮮に手を出すかと云ふ事は皆此露西亞傳來の性質であるから茲に至るのである、此点を根本から見抜いて掛らないと露西亞の眞意が解らないから大馬鹿を見ることかある、然し露國は他國の領土を取つて積極的だれ丈けの事をする考であるかと云ふと一定の思慮がない様である、唯彼等の性質として人の物を取つて見たいと云ふに止る様である之を例証せば彼の西比利亞を取つたけれども占領の後二百年以上にもなる今日唯罪人を流し無賴漢の巢窟となして置いて教育殖産事業即ち開拓には一も手を出さないで打ち捨て置いたではないか、夫か爲めに鑛山を荒され山林を乱伐し鳥獸を暴獵し盡して憚らず此事は漸く近年に至つて唯日本と云ふ剛敵を發見してから俄に兵備を堅くしたので其れまでは實に西比利亞あるを忘れて居つたではないか、開拓すればとて一に軍事上を主眼

として爲すのみで土地を開明に導びこうなど、は夢にも思はないではないか、實に呑氣極まる剛愎者ではあるまいか、

露國の民性の情
 ソコで今滿洲を占領し進んで何處まで南下するかは知れぬが之を略取したとて土地を荒蕪になすとも開發して文明に向はしむと云ふが如きは斷じて彼等の能くせざる所で唯鐵道を敷きて軍事上の便益を測るばかりである、實に西伯利亞に於ける事績を見ても明かに分る事だ、又西伯利亞地方には多くの支那人が住みて始終露人と相接して居るか西伯利亞に於ける露人の仕事と比較して見るに支那人の方が遙かに智識が進んで居て一個人として爲すことは露人に比して數等優りて居る、露人は丸でゼロである兎に角露國民は極めて幼稚な者である事は明かである、斯の如き幼稚なる露國民、支那人にも劣る人民が二千五百年も三千年も獨立して立派な歴史を持つて居る日本人とは到底比較が出来ないことは火を見るよりも明かな事實である、日本國民の文化の度と露西亞國民の文化の度とは同日の談でないことは歴史が既に証明して居るではないか

露國には未だ國會がないから露國民は政治に參與する権利がないのは勿論のことである

露國の民性の情

カ、ル暗愚の人民には逆もそんな貴重なる権利を興へることは出来ないのば勿論である『ペートルスブルク』の衛戍司令官陸軍中將某が恐れ多くも我今上 天皇陛下を『ペートル』大王に比較して日本を賞めた事がある、曰く日本は蒙い日本の今世皇帝は實に御聰敏にあらせられ頻りに西洋の文物を輸入されて僅か三十年にして世界の強國に這入つた其進歩の早さには驚歎の外はない、如何して左様に早く行つたらうか分らない露國は『ペートル』大王以來二百年以上にもなつて然も歐羅巴と界を接し居るにも拘はらず文明は遅々として掛らす漸く今年歐羅巴露西亞が一通り外觀は文明國の体裁を爲したるに日本は實に早は是れ全く日本今上 皇帝陛下の御聖叡に渡らせられたるからであると頻りに賞讃されたことかあるが賞めて呉れた人の精神は謝しへしたが吾人は此比較は實に有難くない失敬な事を言ふ奴だと言はねばならぬ、成程露西亞の『ペートル』大帝と我今上皇帝陛下の事業とは和や似て居る所があるけれども到底同日の話ではないのだ、其時の露西亞は韃靼人の抑服を受けて居つた其民を率ゐて『ペートル』大王は文明を輸入したのである、我日本國の文明の度は維新の際既に非常に進んで居つたことは我國の歴史

が之を証明して居る、成程西洋の文物は近頃我國に入りたのであるけれども本邦固有の文物は特に發達して居つたのであります、此既に開化して居る民に唯西洋の着物を着せたと云ふ有様であるから日本の新文明は僅かに三十年の内に著しく進歩したのであります、之に反して露西亞は元來未開の人民に歐羅巴の着物を早く無理に着せ様としたのであるから猿人形同様二百年経ても依然として未開の民であるのだ、是れは一度露西亞へ足を入れた人は異口同音に唱へることで敢て私一人言ふのではありません

情性の民露
 儲て露西亞人民階級を調べて見ますと貴族は百分の一、三四僧侶が百分の〇、八六市民が九、九〇農が八一、〇軍人が五、一〇外國人が一、八〇であります、百人に就て一人である貴族は西歐羅巴的教育を受けた人であるか百人に就て八十一人である百姓は之に反して全く無教育で前文に於て此農民の性質に就て述べた通りて此農民の智識は如何にも幼雅な者であると云ふことを申したのである、又歐羅巴露西亞に於て都市に居る人と田舎者との比例は一と十である、文明諸國なぞでは田舎に居る者と町に居る者との比例は大概半分位であるところが日本も恐くはそうであろうと思ます、然るに露國は之に

露國の性質

反して一と十との比例であるから都人士の数が少ないに従て文化が進歩しないのである況や民業は起らず民權は發達せず自由の權利と云ふ様なことは夢にたも見る事が出来ないに於てれや、露西亞の全國民は上流と下流とに二分して居つて中流と云ふのが全くないのである、御承知の通り文明國に在ては何處でも中流が多いので世の中を中流で維持して居位であるのに露西亞は全く之に反對である、而して上流の者は歐羅巴流の教育を受けて其思想を持つて居るも下流の者は依然として太古的の考へで居るから上流の貴族と下流の民百姓とは其懸隔は非常な者で雪と墨の様であるから今の露西亞は上流と下流と交通することは到底出来ないのである、か様に相互の交際が欠如して居るから智識の交換などは迎も出来べき者にあらず故に上流は益々上流に下流は彌々下流にて貴族は美味麗衣に飽き百姓は饑饉に病んで居ると云ふ有様である、吾人『モスコ』『ペーテルスブルク』等に於て交際する人は皆上流の人であるから西歐羅巴人と毫も變りなく随分贅澤を極め佛蘭西の文明に酔ふて百事佛蘭西の真似でなければ氣がすまぬと云ふ有様であるから上流の人は衣服から足袋靴まで皆佛蘭西へ注文して取寄せると云ふ姿で言葉は

無論佛蘭西語でなければ通じないから皆佛蘭西語を用ゆるに依て實に第二の巴里を演し出した様な有様である、殊に近年は露西亞と佛蘭西とは政治上同盟を結んでからは一層佛蘭西人の威勢を扶植して、ある處に上流の者は益々佛蘭西の文明に逆上して居るから下流の百姓などは上流の者と交際若くは接近するの時期が到底ありませぬ、而して教育の道が備つて居らぬから中流の者の出來様が奇い唯僅かの商人か中流の位置を占めてあつた他は悉く上貴族と下百姓と二つしかないのであるから、露國民に就て觀察せんと欲せば其農民に就て觀察するに若くはないのである、イザ是より露國の農民の有様を述べんとす

五、露國農民の情況

露國人民の性質に就ては己に前述の通りであるが今度は下つて農民の情況に就て少く述べんとす、元來露西亞の農民と云ふ者は御存の通り千八百六十一年までは貴族の奴隷であつたのである、即ち貴族の勝手氣儘になつて居つた所の奴隷であつたのだ、世の中に奴隷と云ふ者があるとは歴史を讀みて知つて居りましたが露西亞には千八百六十一年即

露國農民の情況

ち今より四十余年前まで奴隷制度があつたと云ふことは實に意外ではあるまいか、夫で此奴隷制度は世に非常なる害毒を流し又露西亞の文化の發達を爲すに非常なる妨害を興へたから『アレキサンドル』第二世は果斷にも此制度を全廢したので茲に始めて農民は自由の民となつたのである、彼等百姓は今までは單に貴族の家來であつたから貴族は之を賣つても買つても如何しても宜いと云ふ制度であつたが此奴隷制度を廢止すると同時に徵兵令を改正したので露國に取つては非常なる大改革で露西亞の近世史では一大進歩なのである、彼等農民が奴隷制度を廢されて自由の民となつて大に喜んだではあるうが今度には國民一般の兵役義務と云ふことを施されて兵卒を徵兵令に據て取らるゝ様になつたのであるから彼等農民は此大改革を却て怨む様になつたのである、又此非常なる一大改革を施しては見たが悲しい哉此改革された目的は達することが出來ない様な妨害が生じて來たのである其害と云のは昔の奴隷制度に代るに又一の庄屋制度と云ふ様な者が起つて來たのである、此奇妙なる制度とは一の土地を一村民が共同して借入り共同して之を耕やし共同して年貢を納めると云ふ制度である、一村民が一致協同して働くこと云ふ制度

露國農民の事情

であるから外見上非常に美風な様ではあるが其實際上非常な弊害が起つて來たのである。其弊害とは斯ふである例へば一ヶ村民が共同して百反歩の土地を借りて共同して働くも素より其一ヶ村の共同に属して個人的の不動産でないから自分が幾程勉強して働いても自分の上り高にはならない共同の物になつて仕舞、年貢は失張り共同して納めなければならぬ實に馬鹿らしいと云ふ心が農民一般に生たのである、イトと懶惰なる露西亞農民は益々懶惰に流れ一人勉強して働いて居ると隣の者は忘れて居るから一人遊び二人怠り遂に働く者が減じて結局民の懶惰心を益々増長させる材料になつて仕舞つたのである。御聞になつて居りませうが近年露西亞では饑饉と云ふことで殊に歐羅巴露西亞では近年は毎年の様に大饑饉で民の餓死する者其數を知らずと云ふ様な次第であるか、露西亞政府は恬として之を顧みないのである、否年々帝室からは多少の救助金が下るけれども中々焼け石に水で到底救ふことが出来ない又一は政府も人民に懶惰心のあることを知つて居りますから充分救はないのである假令救つても種々なる弊害が横たはつて居て救助金は實際百姓の手に入らずして中途の官吏の懐に這入ると云ふ始末、弊害とは言へ驚き入

露國農民の事情

つた次第でいありませんか、斯く農民の饑饉に苦むのも物産が獲れない歳もありませうが一は人民の懶惰に基くので一は制度の悪い爲めであるのだ、其他の制度に尙一の缺點がある、夫は一定の村で共同に耕やして年貢を納る所で其村には森林を分與してない制度で共同的の財産にして置かないソレであるから燃料若くは建築用として木材が入用であつても之を見出すことが出来ないから材木を盗む官林を盗むと云ふ弊害が起つて來て今でも彼等農民が盛に官林を伐つて恬として耻ぢないのみならず誰も怪しむ者が無い位であるから林制の紛乱甚だしいものである、共同的の制度を施した爲め誰も働かない一人で働た所が馬鹿な話したと云ふ心を起さしめたり又は官林を伐つても誰も怪ま無い様になつたことは是れ皆露西亞の發達を妨げる一大原因であるのだ。露西亞人は廉耻心か少ない人智の發達遅々にして隨て廉耻心が非常に少ないから、盗む耻ぢると云ふ様な事を怪む者が無い實に幼稚の民と云はざるを得ないのである、是等は一は文化の程度が低くして二百年前漸く他國の壓制を脱した人民にして又漸く千八百六十一年以來奴隸の制度を廢改られた民であるから其度の低いのは言ふまでもないことだ

又人民の道德を高めると云教もないから更に道德心が發達して居らぬ、故に斯ふしてはならぬ斯ふ云ふことをしてはならぬと云ふ様な教もなければさる心もないのだ、而して露西亞國民の教育は皆坊主共の手にあるのだ、此僧侶は世襲でありまして僧侶の家柄丈けは今でも兵役の義務を免せられて居る大變重く過せられて居るが又矢張其弊害は非常な者である、坊主共が人民に教ゆるに悪いことはかり教てイトと暗愚な人民を益々暗愚に導くのである、其れは何せかと云ふに人民が少しでも利口になれば坊主どもの位置が低くなりて威張ることが出来なくなるのみならず第一収入がなくなるから人民を成べく愚にして置かうと云ふのが僧侶共の計略であるのだ、露西亞は御存の通り宗教で人の心を押へ付け坊主共が教育官になつて居りますが近年露國坊主共の道德は頻りに腐敗して殆んど其極度に達し人民を善道に導くと云ふ様な坊主は殆んどないのであるけれども而かも猶且つ勢力を有して居るので露國には小學校の制度も布いてあり成べく盛にしたいとはお上の方針であるけれども何時も坊主共が邪魔をして小學校へやらぬ、若し行く者があれば坊主は其父兄を諭して汝等アンナ所へ子弟をやる者でない文字を覺せし

たとして如何する者かアンナ所へ子弟をやると唯理屈を並へるか虚無党に加入する様な馬鹿者になる位だ、何でも信神をさへ專一にして居て吾々の説教を聴て堅く守つてさへ居れば天帝は必ず汝等を善道に導き賜ふ者であるなどと言ふて口説き付るから愚民は遂に其氣になつて益々愚に陥るのである、だから村内には新聞を讀める者はない、否、自分の姓名を讀める者はない實に豫想外である、今帝「ニコライ」第二世は東洋へも來られた方で世界の文明と云ふことは充分に趣味されたお方である、それで帝位に即かれるや否や自國に於ける文化の度を高めたいと云ふ事には最も御熱心で且つ御承知の通り皇太子の時に我國にも來られて西伯利亞を這つて賑はれた人でありますから西伯利亞に於ける民度の如何に幼稚の極にあるか又西伯利亞地方の事業の擧からさるかは充分陛下の胸裏に寫つたのでありませうし、又陛下に隨從した所の者にも分かつたろうと思はれます、故に今帝は即位以來露西亞に似合はない文明主義の制度を發布されたけれども如何せん、途中に横はる者あつて殊に坊主共が社會に跋扈して居つて聖天子の有難き思召も下民に達しないので詰り文明の空氣、文明の光線は未だ百姓には通して居らないのだ、例へ今

帝が教育令を改正せられましても前述の通り坊主共が途中に在て學校へ行くならば已の所へ来て居ればよいと毎日説教して聞かせて行くので暗愚の民は之を妄信して居るから村々に於る農民の教育の發達せぬと云ふことは固より當然のことである、又彼等暗愚の農民等は政府の令達よりも坊主等の云ふことを信じて居るから今の處では教育の發達は到底六ツケしいのである

六、露國農民の風俗

露西亞農民の無學文盲なることは前段已に述べましたが尙ほ進んで其農民等の習慣及癖等を述べて見ませう、露西亞農民等には種々様々の悪い習慣と悪い癖がある、其内最も悪い習慣は焼酎を好で飲むと云ふことは大害を爲して居る、是は露西亞に行つて見れば直ぐに分ることであるが露人は非常な好酒家である、一般文化の低い民は強い酒を飲む様であります、露西亞人は焼酎を飲む焼酎がなければ露西亞人は生きて居られないと云ふ程好きであるのだ四十度位の焼酎をコップに注ぎて恰も水を飲む様にグヒ飲み二三杯も引掛て平氣の平左で居る、是等は獨り農民のみならず馭者馬丁車夫の如き下等社會の

露國農民の風俗

露國農民の情 况

者の何れもろふであるのだ、焼酎は「ウォッカ」と稱へてアルコールから製する火酒である、私は此「ウォッカ」の製造場へ至りて一見しました、馬鈴薯から搾りたるアルコールを四十度に薄めるので一の器械を据付てあるが詰り水とアルコールとを能く混和するのである、「ウォッカ」は同國人上下一般の常飲物で恰も我日本人が酒を飲様に「ウォッカ」を飲んで居る、近頃では自國製の麥酒葡萄酒もありません、價が高いので上流の人でなければ飲むことが出来ない、四十度のアルコールを常用に飲のは一は天候が寒いからでもありませう、成程少量の火酒は寒威を凌ぐには或は欠くべからざる者でありませうけれどもアルコールと云ふものは少量を飲で済まして居ることは出来ない者で一合が二合となり二合が三合四合五合となつて終に多飲するものである、今日まで露西亞國民は火酒の爲めに害を受けて居るのは實に恐るべき程である、彼等の飲むのは飲むが目的にあらずして酔ふのが目的である、否、酔ふのが目的にあらずして火酒に飲まるゝのが目的である、否や飲まるゝのが目的にあらずして酔ひ倒るゝのが目的である、アルコールに酔ふては精神が混乱し感覺が麻痺するから寒氣も何にもかも忘れて終まい冬天に屋

外にゴロ／＼寝て居ると云ふ始末である、尤も彼の農民は酔へば何處でもかまはずに寝ると云ふ癖がある、否多く飲むから酔へ倒るのである、又彼等は酒屋に飲みに来て酔へば其儘に寝て仕舞ふううして酒屋でも亦かまはず寝せて置くが店を仕舞ふ時分になると酔漢を戸外に放り出して戸を締める云ふ實に冷淡極る待遇をなすではあるまいか是故に冬期は酒に酔ふて戸外に臥して凍死する者年々數知れずと云ふ、本邦北海道に居るアイヌが酒を好むと云ふことを聞で居りましたが曾々私が北海道へ往つた時私の好奇心にも之を試みた事がある、上等の酒一升と中等の酒一升と極々下等酒にしてアルコール製分の強いの一升とを以て彼のアイヌに飲した事がある、然るにアイヌは第一番下等酒のアルコール製分の強いのを好んで極上等の酒は水の様だと云ふて余り好まないのでつた、露西亞農民も是等の點に就ては極似して居るのだ、御承知の通り火酒を乱用しては酔ふて居る時ばかりでなく後にまでも酒毒に中り種々の病を引き起し終に馬鹿になり氣狂等になつて斃れる者がある、酒は百藥の長とか鬱氣を散する玉帯など、能く人が云ふが成程衛生を重んじて通常に用ゆれば百藥の長にもなりませうが之を乱用する時は百毒

露 國 農 民 の 情 况

千害になる者である、殊にアルコールの中毒は獨り飲者其者のみならず延て子孫に遺傳するが故に酒中毒に罹れる者の子孫は皆身体が虚弱にして又生れ付の痴愚若くは不具な者が多い、成程露西亞に往て能く觀察すると割合に癡癩病院が多いから彼の農民等は火酒の中毒を蒙りて居ると見ゆ、元來幼稚の民が酒中毒に罹り癡狂に陥るのみならず尙且つ遺傳して斯の如く多數の狂者を生ずるのであると思はれます、軍隊にありても士官を始めとして下士兵卒も随分火酒を飲むから彼等も多く癡狂に陥り入院して居る有様は實に目も當てられぬ慘狀であります、是即ち酒が害をなして居る一証である、有識の人は衛生を守りて之れは悪いと思ふて少しくは慎みませうけれども無識の農民は左様なる考へもなく且又外に適當の飲料もないから今日の處では之を禁じ様と思つても到底其實行か出来ないのである、又此「ウオッカ」酒税は政府歳入の一大財源で此酒税のみにて今の露西亞の軍費を支辨して尙餘りある程であるから實に政府に取つても飲て貰はなければ困るのであります

露西亞農民の今日生息する有様を觀察すれば實に驚くの外はありません彼等は一家團樂

露國農民の情

として親は子を教育すると云ふ念に乏しく子も亦さる心が少もあいのだ、元來文化の度が低き民なるに加ふるに道德地に墜ち品行破れ惡癖が益々増長して殆んど其極に達して居るのみならず彼等は實に懶惰の性質であるから眞面目に働くとも思はなければ又働かせ様とも思はぬのです、彼等は剛愎の癖に働いて金を溜め様とも思はぬければ又財産を拵ひ様とも思はぬのです、彼等の腦髓には衛生など云ふことは更にないのでありますから清潔に掃除をするなどの心は少もないのだ、唯金さへあれば火酒を貪り酔へれば寢て居るから氣樂と云へば氣樂な者香氣と云へば香氣な者の様であるが其實は惰怠極るのである、彼等は懶惰なるのみならず其品行の悪いことには又驚くの外はないのです、彼等は人の妻であるのか自分の妻であるのか殆んど區別がない有様である、又百性の年頃の娘が若い男の二三人も持つて居らぬ者はないそうだ、彼等の土諺に面白き奇言がある即ち「女房を撰ぶには先つ通して其懷妊するを俟つて復娶れ」と蓋し其意は此女は子を産むや否やを試験して而して後貰へと云ふにあるのでせう、又女の方でも懷妊せざれば是れは合はぬと云ふて直ぐに他の男を引つ張るううです又一家に下婢を傭ふては主人も子

露國農民の情

息も到底黙つて居らず直ぐに不義を働き殆んど獸慾に近き行爲をして靦として少も耻と思はないのである、斯の如き有様であるから彼等には道德とか貞操とか云ふことは少ない否知らないのである、是等は皆文化の度の低いのと教育がない爲めと火酒の毒が重り重つて斯の如き狀況を來たしたのであるうと思ひます

露西亞は有名の宗教國である然れども國民が酒の害を受けて居るとは實に歡かばしい事である、是れ實に宗教の酒を禁じない弊害である、此一點は耶蘇教の一大缺點である、孔孟の儒教は勿論佛敎、ラマ敎、マホメツト敎、等皆堅く飲酒を禁じて居る、獨り耶蘇教は酒を禁じない麩麩は吾肉となり葡萄酒は吾血となることはバイブルに特筆してある故に耶蘇敎國へ行くと何れの國も一般に酒を多く飲む歐羅巴人の酒を飲むことは實に盛な者である、然れども人智の發達して居民は之を適度に用ゐるも野蠻半開の露西亞人はアルコールを頗る多量に用ゐる、是れ實に亡國の原因となるのである、支那に佛敎若くはラマ敎が廣まつて居るが此宗教は何れも酒を禁じて居るが故に其人民は酒を飲まず隨て品行も方正で道德も亦高い支那人は決して多飲家ではない其れ故に支那人は能く働さ

三十八

勉強して事が亂でない故に召使ふには支那人は確かに世界に最も信用がある、之に反して露西亞人は全く無能である暇さへあれば酒を飲んで酔ふて居る酔ふと任務を忘れて疑るのみである、支那人は勉強の民である故に露西亞へ行くとき其區別は誠に著しい露西亞人は酒を飲み支那人は勉強して居ると云ふ有様である、支那人は物を製造する人種である露西亞人は之を消費する方の人種である、支那人には阿片を飲むと云ふ弊害があれども其用の様では焼酎より害が少ないと思ふ、阿片の有害なることは支那人も特に承知して居り政府でも種々の法令を布き其喫煙を禁じて居るから支那人は同じく阿片を飲むにも幾分か戒心して居るが露西亞人は戒心など云ふ考は毛頭ないので暇があり金があれば火酒を飲むのが彼等の能事である、戦争すれば敗る逃ると相場が極つて居る支那人に比較して猶且つ斯の如く劣等の露西亞人である、況や之を日本人に比するに於ておやだ、然れども彼等は剛愎の人民である彼等は盗み根性を有する動物である、移住を屁とも思はぬ動物である寒氣を喜んで居る動物である耻も外聞も知らぬ動物である屈從を喜て居る動物である懶惰である、豚の様であるから能く此性質を見抜いて關係しないと臍をかむの悔へなきにしもあらずた

七、露西亞の軍隊

露國農民の有様は前段に於て述べた通りであるが今は露西亞は徴兵令を布きましたか今露西亞の兵は皆此百性から採る様になつたのである、夫て露西亞の兵卒は悉く斯る農民の壯丁より出て居るのであるから露西亞軍隊の價值は下の位であるかは概ね以上の事實を考へたならば想像し得らるゝであらうと思はれます、而して彼等百性は徴兵に出るのを非常に嫌ふて居る、其れは何の爲めてあるかと云ふに一は現役年限が長いからと一は軍隊の冷遇なのと一は妻子決別の情を惜むからである、露西亞の兵役年限は現役が四年乃至五年であるから實に長いには違ひないが軍隊の待遇がよいければ耐へられんこともなからうが待遇は余りよくない處に彼等農民は懶惰極る生活をして居る加之ならず彼等の多は大概二十歳前後で結婚するの習慣があるのみならず結婚する時は必ず子を有つて居ると云ふ次第であるから徴兵適齡の頃には二人の子を持たぬ者はないのである、而して徴兵に採られると現役中家族の者と面談が出来ないのみならず音信不通にな

露西亞の軍隊

つて仕舞ふのである、露國は馬鹿に廣い國であるから一度手紙を出しても其返事は半年も掛らなければ返事を見る事が出来ない、併に交通稍々便利なる所に屯在して居る兵士等は稍々便利を得るも遠隔の地方に分遣して居る兵士等には新聞も見ることが出来ない、又一方から云ふ時は彼等農民には教育がないから文字を讀む者は甚だ少くない自分の姓名を記する者毎年徴兵に採る所の壯丁中僅かに百分の二三である、兵卒には何れの國に於ても壯丁中身体は勿論多少文字を讀める者を探るが露國の兵隊の根本たる百姓は實に無教育であるから幾程善き者を探りたいと思ふても致し方なく無學文亡の者を探るのである故に兵卒等は如何に妻子を思ふと雖も手紙が書けないければ止むを得ず音信不通となるのである、斯の如き事情があるからして農民一般は兵役に出るのを嫌ふ傾きがあるのです、露西亞軍隊内の生活は各兵卒が郷里にあつて生活するのは殆んど同一なる方法であるけれども元來懶惰なる農民の子弟なれば其勤務上に於ても非常に困難の様に感ずるのである、又政府の規則も他國に比較せば頗る壓制の處もあるから採る、兵卒は勿論其家族の者は非

露西亞の軍隊

常に困難を極むるので恰も死別の様に悲むのである、泰平無事の世にありても其父母は我が子を返して呉れ其妻は子を背にし又は之を脆きて我夫を戻して呉れど村役場等に至りて泣訴する有様は實に惘然の至りであります、若し一朝事が始まつたなご、云ふ事を聞く時は兵卒等の家族はワイ／＼泣き騒ぎて役所に泣訴すること甚しく爲めに何れの役所に於ても皆悲鳴の聲を以て充滿する次第であります、支那人が能く泣くことが上手であるとは吾人能く之を知るが露國農民は尙一層甚しいので頗る惘然を粧ふことは上手なのである、否、實際其家族の有様に就て調べて見ると惘然な次第である、露國政府が壓制極まる法令を出すも下流の農民は之に屈從して何んとも思はぬ性質を有して居るから此特質を有する農民を以て一度軍隊を編成する時は軍隊に於て最も貴ぶ所の服従法は誠に能く嚴格に行れるのであるが此點に就ては兵の模範である露西亞に優つて居る者はないとまで歐羅巴人も言つて居るが然し是れは受動的の服従であつて寧ろ思ひべき屈從であるのだから彼等兵卒は主動者若くは命令者が宜しいと謂へば乃ち之に服従して始めて動くので決して自分から其善惡を考へて働くと云ふことは少しも出来ないものである、彼等

露西亞の軍隊

は一個獨立と云ふ事は出来ない人種であるから何時も指揮者が牛馬の様に指揮しなければ動かぬのである、否、働くことが出来ないのである、斯の如き人種であるから指揮者の其指揮が宜しき時は如何なる難事でも厭はず働くのである、彼等は既に露土戦争の時夏季炎熱焼くが如き季節に際し茫々たる高原に堤の砂上に寝ね冬は互寒肌を裂き積雪肩を没する時能く雪上に露營して少しも屈しなかつたと云ふ事がある是等は實に服従心に富て居るの結果にして上官の命する所は水火も辭せずと云ふことなのである、之に反して若し指揮者が無い時は全く牛馬の様で唯自分勝手に道草ばかり食して居て軍隊の目的に就て働くとも思はなければ又軍紀風紀に係るなどの心は少しも持つて居らないから行軍中の小休憩の時でも都合がよいければ民家に這入つて略奪をすると云ふ様な次第であるのだ、抑も服従は軍隊に於て缺くべからざる要素なれども斯の如き受動的服従は近世の戦術上大に不利益である近世の戦術は各兵に多少の獨立の働きを希望するので即ち一個の人間に重きを置いてある、譬へ軍隊は命令指揮の下に動くべき者とは雖も各個各自の機敏なる運動は後來益々必要になつて來るのである、然るにも拘らず露西亞兵は服従心に

富んで居ると雖も各自自動的に働くこと云ふ氣轉がないから其外形の美なる如く果して國家有事の日に有益なる動作を爲し得るや否や頗る疑はしき事であるとは獨逸軍人等の觀察して居る點である

彼等は屈従心に富んで居る性質であるから外見美なるが如しと雖も其内心に至りては彼等が妻子が泣訴する如く怨心の深きことは一目瞭然である、然れども彼等兵卒は元來剛愎の性質を有して居るから滿州に來るなどのことは非常に喜んで居るのだ何となれば彼等は滿洲等に來れば金銀寶珠は望み次第に取ることが出來ると云ふことを忘信して居るからなのである、見給へ彼の北清事件の際に露兵の亂暴掠奪強姦等を恣にしたことを、彼等は人の物を盗ると云ふ事は何んとも思はぬ性質であるから戦争など云へは人の物を盗るのが勤務かのように心得て居るから如何とも詮方がない者である、彼等は何物に拘らず盗りさへすれば軍紀風紀などには少しも頓着せぬ一般の風習であるのだ

八、露國兵士の生活

露國の兵卒は滿二十一歳にて入隊して爾後歩兵は四ヶ年其他の各兵科にありては五ヶ年

間の現役である、然れども中等若くは高等の教育素養あることを証明する者は破格として此制規の在役年限を減縮せらる、即ち我國の一年志願兵と云ふ様なものである、又徵募に應ずる壯丁は毎年十一月に徵兵検査を行ひ之に合格したる者は十一月の末に之を各部隊に配属し各部隊は十二月一日より軍事教育を開始するのである、新募の兵卒は各兵科の中隊に配属したる後其中隊の被服装具の貯藏室に於て被服を着換せしめ同時に既成の被服装具一式を下附するのだ、其後此等物品の保存期限が経過し了りたる時は靴及襪衣に對しては之に要する原料を與へ各自に之を調製せしむのである、抑も此件に就ては各國陸軍に於ては到底實行の望みがないとて、斷念したのであるけれども露西亞の民衆は素と頗る技藝工術に長して各自熟達せる所あるに因り縱令へ靴の製造や襪衣の裁縫が出来ない者あるも他の此技に巧みなる戰友は喜で補助の勞を執りて其物品を完成致しませすから少しも不都合とないのである、又兵卒の俸給は極めて少しにて一ケ年の給支額は近衛歩兵に在つては參圓拾五錢戰列歩兵にありては壹圓八拾九錢にして之を四ヶ月毎に後拂計算を以て給支するのである、此の如き小額の俸給にて常に手袋及洗濯用諸物品を

露國兵士の生活

求めねばならぬのみならず、其他の日用品も嗜好物も皆此内にて買求せざればならぬのであるから随分困難なことである、我國の兵卒の様に家から金を取つて使用するなど、云ふ様な贅澤は露國の兵卒に在ては夢にも見られぬ事である夫て人は皆斯の如き僅少の俸給を以てドウして兵卒は生活して居るか云ふに露國は中隊を以て最小戰術單位と爲すのみならず兼て最小經理單位となすが故に中隊長は經理上に於て給養掛下士及び其補助員併に給支掛員を役使して一切の事務を所辨して居る、給養の經費は中隊の定員に對する一人の給養額は壹圓貳拾六錢と副食物費八拾七錢五厘と現物食品である、此食物は麥粉凡三十グラム、或は一吉羅二百三十グラムの麴麩及百三十七グラムの粗粉併に半ポントの肉に對する不定代價より成る者にして給養定員に應じて支給せらるゝが此等の金額は皆中隊長が自ら管掌する給養金櫃に流入して置き日々給養掛へ下附する定額を以て晝夕兩度の暖食を理調せしむ、此給養金櫃より支辨するものは一週間に二回以上兵卒の沐浴料も炊爨具修理整頓料も合て居るのだ、借又歩兵中隊には大概其隊の所屬畑圃を有して居る若くは賃借の畑圃を備へてあるのだ、此畑圃には中隊の兵卒が種々の蔬菜を

露國兵士の生活

培養して兵餉の副食物となすのである、若し又給養金櫃に餘有の金がある時は騎兵科又は砲兵科に就て其鞍馬及車輛等を購買し來て所屬の畑圃耕耘に使用するのである而して中隊各個に蔬菜を培養して晝夕兩度の食餌調理に供し尙ほ餘りあれば之を賣却して其金を給養金櫃に納め置くのである政府より支給せらるゝ費額は極めて僅少ではあれども中隊に於ては此の如き方法を以て其費額を節減するを得るから其中隊に於ては少なからぬ金額を貯積して居るので此貯積の額は六百ルーブルを超過べからざるの例規であるから若し其蓄積が定額より超過する時は其超過額に相當せる金圓を副食物費より除却するべしとが得るから給養費額として政府より下附せる金は皆悉く兵卒の所得となるのである又此蓄積金の外に給養金櫃に繰入るべき金は糧食燃料及燈火料の剩餘と材料其他種々の拂下げ物の代金、併に兵卒等が志願勞役に依て收得したる賃金の内より上納すべき一定の金である、兵卒の志願勞役と云ふは例へば日曜日及び休日に兵卒等は志願にて或會社や店に至り働いて得たる賃金の内五分の三は中隊に上納し五分の二は其者の收得と奇妙な規定があるのだ、恰も本邦の囚徒が外役して得たる賃金の幾分を支給さるゝが如きも

のである故に露國の兵卒は勞役志願の者は澤山ある又或る工事即ち道路の修繕又は開通等の工事があつた時は中隊長は之を受け負ふて得たる賃金は即ち給養金櫃に繰入るのであつて斯の如き種々の方法にて收入があるから露國兵は給養費の極めて些き割合には生活上差支はない様なもの、其不足の金員補給の途を開かんとする當事者の苦心慘憺は實に察するに餘りありと謂ふべしだ、夫れであるから各中隊は野營(夏期)演習が終れば兵卒に所謂農時休暇なる者を與へ其期日の間は各自の企望する所に任せ耕作地又は製造場に至りて適宜の勞役に服することを許すの特權を有するのである此勞役事業は聯隊長が紹介の勞を執りて就役に關する契約を締結し其間兵卒に對する宿舍及給養等の悪いことはないか否やを監視するのである、此勞役に得たる賃金は農時休暇を與へられた兵卒の財産となるのでなくして其中隊の財産になるのだ、若し中隊の給養金櫃に蓄積の金額が六百ルーブルを超過しない時は此勞役に得たる金の三分の一まで其金櫃に收入して置く、之に反して該金櫃の蓄積金額が六百ルーブルを超過した時は之を中隊の兵卒全般に分配するのである

露國兵士の生活

前述の如く露西亞に於ては中隊を以て經理單位としてあるが此中隊の上には大隊、聯隊がありて法令上の監視の任には當れざる此經理の一事に就ては中隊の兵は頗る獨立の實がある、又給養法の如きも一種獨特にして實に廣漠且つ尨大なる露西亞の地方状況には適應する者である、露國の軍隊は我國の屯田兵の如く自營自活の主義を取つて居るから政府より給養費を支給するは至つて僅少にして大概其原料を支給するのである、デ中隊の定員は下士十名兵卒百四名であるが此内に靴工術を得る者には靴を製造せしめ裁縫に長して居る者には襦衣ズボン下等を製造せしめ麪麩を焼くことを知つて居る者にはパンを焼かすと云ふ様に各自に調製せしめて被服裝具其他百事に於て毫も不足を感じない、殊に糧食の如きは間然すべき處がないのだ、其れで中隊委任經理の特色は其利益とする處極めて大いが此一小區域の經濟にては尙ほ多額の入費があるから各中隊に於ては各自單獨に經理する方針を執らずして多くの中隊が相謀りて共同經理の方針を取つて居る、即ち露京聖彼堡府に衛戍せる諸隊の如き其他に在る隊と相謀つて共同的に家畜を購買して之を屠殺し又「ヴァルシャウ」に於て午饗及晩食に供用する物品等をも共同して購買する

露國兵士の生活

のだ、就中麪麩製造の如きは大隊(聯隊若くは一衛戍地の諸隊)に於て共同して製造するのである、蓋し趨勢上成べく僅少の資金を投して可成的佳食の給養を仰ぐ必要があるから遂に此小經理單位幾多を合同して自營自活の範圍を擴大にするのである、此合同經理の利益は常に兵卒各自に佳食の給養を與ふるのみならず其郷土在住當時の生活を懷はしめ家畜の買入飼養屠殺及蔬菜の培養に於て一種不測の愉快を惹起さしむるのである併しなから露國の様に兵役年限が永い國にては斯の如き土兵の様に居て居る軍事教育上に必要なる日時を奪はれても左程其弊害があるまいが兵役年限の短き諸國にあつては斯の如き香氣な軍事教育をしては逆も居られる者ではあるまい、露國の兵役年限は實に長いけれども露兵は比較的軍人素養が至て少くない何となれば兵役年間に軍事教育を受くる日時は實に少ないからである、露國兵は前述の如く生活上にのみ急々として練兵演習などをなす日時は殆んど稀なる土兵であるけれども露西亞兵は特質として服従心及献身的精神に富んで居り就中忍耐且つ剛毅あるから如何なる難事にも打勝つべき氣力と堅忍力とがある、又露帝は國長の資格と宗教長の資格を持つて居るから國民は忠義心に於

ては國長に服従し信仰心に於ては宗教長に服従すると云ふ様な譯であるから露國の人民は今日に於ても尙ほ往時に於ける如く皆同一の性情を有して居る、國人の性情同一なるは是れ敵に取つては實に侮るべからざる一大勢力ではあるまいか、故に露國に於ける無形上の勢力は却て有形上の勢力に優つて居るのであるとは是れ所謂恐露病に犯されて居る者の捏造の言語にて取るに足ぬのである、思へ見よ當今各國共に軍事教育には非常なる熱心と充分なる盡力してあれども實戦上に在て強兵と稱する者殆んど稀である、況や露國の如き不充分なる軍事教育を施す者に於ておや其熟練なる精兵を得る筈がないことは火を見るより明かではないか、故に戦術上に於ては少も恐露々々するに足らずと雖も彼等特性上剛愎の一點に至りては恐るべき剛敵である、彼等は剛愎の爲めには身命を顧ざる性質であるから是が防禦の策を講ずれば恐るべき敵にあらず然れども油斷大敵と云ふ金言を守り又大敵たりとも恐れず小敵たりとも侮らずと云ふことは常に軍人の頭より忘離すべき者にあらず

九、哥薩克兵

哥薩克兵

哥薩克兵

露西亞の哥薩克兵と謂へば誰れ知らぬ者なきまで有名な兵であるが、彼の清國の滿洲騎兵と同様で其實際を調べて見ると少しく買ひ冠つた法螺である、哥薩克兵は元來純然の一人種一國民より成りたる者にあらずして露西亞人もあれば韃靼人もあり波蘭人もあると云ふ様に色々の種族が混合したる者である、そふして哥薩克とは韃靼語にて勇敢なる武士と云ふ様な意義であるが、三百年以前の昔し露西亞の民と韃靼の遊牧人民との間に激烈なる生存競争が行はれてあつた處が韃靼人が非常に勇猛にして露境に侵入し來りて露國人民を殺害して困るに依り露國政府は其邊疆の住民中の勇丁を集めて韃靼人の侵入を防禦せしめた是が即ち哥薩克兵の濫觴だ、爾後所々方々より惡漢共や流氓共が加り又露西亞人にして露國政府の壓虐に堪ざる者や波蘭貴族の壓制に堪ざる者が自ら之に合して韃靼人の既に領有せし國土に向つて勇往突進して其國土を取返したのである去れば露國政府は彼等を以て自然の障壁ふ利用して常に遊牧人種との戦争に於る先鋒となしたので彼等は素より惡漢賊子の集合にて何れも命知すと云ふ者のみ故常に侵略を業として至る所乱暴極まりなしと云ふ有様であつた其當時は露國政府は至つて薄弱で土耳其政府の

下風に屈して居つたが彼等は其属地たるドン河岸を掠奪したので勢益々盛になつたから露國政府も之が爲め大に勢力を得たのであるが彼等は素より慄悍決死の輩でありますから法律とか規則とか云ふことは更になく唯掠奪を事として良民を侵すので露國政府にても其儘に致し置く譯には参りませんので遂に之に壓制を施し壓虐を加へて鎮壓致さうとすると彼等は却て之を怨に思ひ屢々政府を轉覆せんと企てしこともあり又叛徒に内應せしこともありました、ソコで露國政府は飼ひ犬に手を噛まるゝと云ふ様な次第であるから亦もや不法なる干渉政策を執りあらゆる手段を以て之に干渉を試み漸次に彼等が從來の自治權を剝奪して或時は軍隊を更革し又或時は之を壓制壊滅して哥薩克兵の特色を滅殺して強ひて露國臣民と化せしめんと致しました、が此目的を達せんが爲めには尙ほ露國政府は露國皇子を以て哥薩克の大將軍に任じ其偏將には露國の士官を以て之に充て彼等從來の共有財産なりし哥薩克の領土を不公平に分配し或は官吏のみに爵位を授けて彼等の間に不和を生せしめし等種々の方策を施した處彼等の間に反目疾視の狀を生じて一致の抵抗することが出来なくなり又其特權は痛く削減せられましたから露國本土の農

兵 克 薩 哥

兵 克 薩 哥

にも劣る様になり遂に哥薩克的自主自由の風は蕩として地を拂つたのであります、其後種々様々の改革を行ひ漸く今日では先づ正式の土兵になりましたけれども往時は前述の如く不規則兵の横範として殊に有名な者で決して剛勇猛烈なる爲め有名なる者ではないのである、夫で戰場に於ては勿論常に人の財産を掠奪し或は婦女を強姦するなどの乱暴を極る者を指して哥薩克兵かどは歐洲軍人社會の嚙語となつて居るのだ、扱て以上の如き乱暴の哥薩克兵の今日は如何に改革せしか如何ある生活して居るか左に其一通を述べて見ませう

哥薩克騎兵は二十ヶ年間兵役に服するの義務を有して居るのである、男子満十九歳に達すれば徴兵検査を施行して合格した者は即ち此兵役に就くので忠君の誓ひを爲すのだ、此忠君の誓ひを爲せば準備定員に編入せられますから此時直に馬及馬具兵器器具等一式を與へらるゝのであります而して満二十歳に達すれば春季及秋季に一回づゝ其所属隊の演習に加はりて演習をなし翌年即ち二十一歳に達すれば一ヶ月間野營に滞留するのである、満二十一歳に至れば始めて現役兵員に編入せられ一定の營所にあつて勤務に服する

のである、而して四ヶ年間現役勤務に服したる後ち待命兵として飯郷を許され其後五年間は第二線聯隊に編入され次に三ヶ年間は第三線聯隊に最後の五年間は豫備役に編入せらるゝのである、而して其服役二十ヶ年間は軍服武器馬具等は大切に保存して置かねばならぬ義務があるのだ、但し馬匹を飼養するの義務は最初の十二ヶ年間のみであるが第二線聯隊に編入せられてある間は毎年野營内に於て二十一日間づゝ演習に臨まねばならないのである、其外待命中にある間は毎年三回づゝ地方司令官の検査を受けなければならぬのである、此検査を受けるのは本邦の豫後備にある者が年一回簡閲点呼を受けるものと同じ事であるが露國の哥薩克騎兵は毎年三回づゝ検査を受けねばならぬ様になつて居るが其實際に於ては地方司令官の督促が甚だ嚴重な者であるから哥薩克兵は毎年六回乃至七回づゝ其馬匹を検査に供へねばならぬのである、斯の如き義務は哥薩克兵に取つては甚だ苛酷である何となれば該兵等現役を終りたる後は各其所屬地よりも隣分遠方に赴いて職業に従事する者もあるから簡閲の度び毎に四十乃至五十ヘルストの距離を往復せざればならぬからである、斯の如く屢々其職業を中止せなければならぬから哥薩克兵

哥薩克兵

は政府若くは會社の役員等の如き常に連續して業を執る職業には到底従事することが出來ないのであるのだ加之ならず檢閲を受ける爲めに要する費要は政府より支給せられぬから皆私費を以て之を辨じなければならぬと云ふ第一の困難があるのです、其外に哥薩克兵に取つて最も困難なることは與へられた馬匹を飼養することなのである、彼等は準備勤務及待命勤務中は一文の手當あるでもなし、又其軍馬を使役して田畝を耕すことも出來ないのみか之を地方の馬群中に混して野草を食はしむることが出來ないので、何となれば斯る馬群中には種々の病氣が発生して居るから其傳染が恐ろしいからである、若し馬が傳染病にでも罹つたならば地方司令官より目玉の飛び出る程小言を聞くのみならず軍律を以て問はるゝから夫れが恐ろしいのであるのだ、ダカラ哥薩克兵は詮術なしに己れの勞働に依りて其軍馬の飼養料を求めねばならぬと云ふ大尼介があるのだ、又服裝の改正でもある時の皆自費を以て之を新調せざればならぬのである、夫で哥薩克兵は兵役年限二十ヶ年間は職業に勉勵して財産を豊かにするなどは到底出來ない唯軍馬の爲めに汲々として働かねばならぬと云ふ随分酷な話してはあまるまいか、而して政府は人

哥薩克兵

民に斯の如く負擔を重くして置けども毫も補助するの途を開かぬとは實に非道ではあるまいか、夫れであるから人民等は益々兵役を厭ふの心を深からしむるのみならず政府を怨むの心が生ずるのである

哥薩克兵

哥薩克騎兵の編成は一聯隊を以て一師團となす聯隊は六中隊より成る一中隊は四小隊に分ち十六伍を以て一小隊となす小隊は更に三伍より成る分隊に分つ、とふして平常の生活法は概ね歩兵に就て前已に述べました通と大同小異である、何せよ露國政府は僅かの給養費を以て多くの兵を養ふと云ふ政策であるから政府に取つては善良の政策ではあるか知らぬが各兵卒に取つては非常なる困難の事と察しられ升

哥薩克兵は獨り兵卒のみならず將校に於ても随分困苦乏欠して居るので其有様を見と我國の所謂九尺二間の裏長屋に住で居る熊公、八公と云ふ様な者であります今其概略を述べて御參考に供へます

哥薩克兵

ばかりで之が終れば皆郷里に飯休して居るから隨て軍隊の實務に疎懶なると同時に其受くる所の俸給も現役の時よりは甚だ僅少にして宅料賄料馬量等は給與せられぬ様になり又一方に於ては其兵役義務に對する補償として國家より受くる土地の収入は頗る少額なるが若くは毫も之れなきにも拘らず次回の現役召集及飯休中の演習の爲め裝具馬匹兵器等の準備を爲し置かねばならぬ上に入隊に要する旅費も亦多く自辨せざればならぬのであるから飯休中なる彼等は其生計の補助として本職以外に種々様々の業務を求めて就かねばならぬのである、是故に彼等は或は哥薩克町村の學校教員とあつて居る者もあり又或は測量手などになつて居る者もあり或は會社の雇員となつて居る者もあるから勢ひ其弊として將校の体面を損し其自余の人民に對する威嚴を減ずる様なこともあるのだ、尤も生きて居る人間であるから食はずには居られませんが休面や威重の損滅するなどの事には頓着して居られませんので止むを得ず卑賤の業とは思ふて居るが詮術のない話であるのだ、夫で教員や測量手になつて居る者は頗る上等の方にてズツト賤しき業に就て居る者は澤山あるのです、當今は實に金の世の中で金さへ澤山持つて居れば何處に居る

も又如何なる愚物大將でも矢張り旦那様と尊敵せられますが金がない日にや幾程利口でも誰も相手にしないので困ります。去れば哥薩克兵の隊長方に於ても金がないから如何なる賤業にても厭ふて居る譯には参りません、然る處今回露國政府本年八月十七日に發令して同將校の困窮を救濟せんと計りました其令左の如し

哥薩克兵

- 一、飯休聯隊の定員に属するドンコサツク兵及オレンブルヒ哥薩克兵の飯休將校は本職を帯ふる傍コサツク町村長に選舉せらるゝことを得
- 二、前記兩兵隊長の最高級者は情況に依り其見込を以て飯休將校をコサツク町村又は更に狭小なる地區の長に任ずることを得
- 三、飯休將校第一項及第二項の職務を兼るも其飯休聯隊夏期演習の召集及平戰兩時の現役召集に應ずるの義務に毫も變更を生ずることなし
- 四、該將校は尙ほ其軍隊の定員に属し制規の進級を爲し飯休將校の俸給を受くること他の將校に異なることなし但し其町村等の長として町村等より報酬を受くるは此外に於ける主要の點とす

露兵の滿洲より

五、第二項乃至第四項の規定は隊長の命を以てコサツク町村長に任せられたるウラルエサツク兵の當該將校にも之を適用す

六、コサツク町村長に選舉せられ又は任せられたる將校軍隊へ召集せらるゝ時は其代理者及助役の兵役は之を免す

此規定はコサツク兵の飯休將校をして其位地に相當し且つ收入ある職務を得せしむるを目的とする者であるから同將校等は大に歓迎する所であろうけれども現役外にある將校は甚だ多いから此規定の恩澤に浴する者の比較的僅少の人員に過ぎない故に同將校の生計に關しては更に改良の方法を講せざれば露國の文明は退歩の厄運に至るや難斗ることと思ふ

十、露兵の滿洲をより

露國の國柄、露人の性質農民の情況及軍隊の有様兵士の生活等は前已に述べた通りであるから其一般を知るに足るべし然れども之れが例証なければ或は一の法螺談にはあらざるやと疑ひを起す方もなきにしもあらず依て今清國滿洲にある露國兵の動作に就て其二

三を説述して之れが例証となす、即ち滿洲石柱子に於ける土民の言

昨年六月頃に哥薩克兵四十騎程、將校二名に率ゐられて此地に四十餘日滞在した事が
あります、其將校の名はチンスコア及ユーリトと申ました彼等が滞在中は乱暴至らざ
るなく手當り次第民家に押入りて金品食糧を強奪し中にも或家の如きは銀四百兩と証
書類とを奪ひ去られました、彼等は頻りと附近を測量しました、後二十名づゝ二隊に
分れ一は貂窩の方へ一は十巴嶺の方とに向て去りました

又沙里塞附近の土民の言に曰く

昨年の五月中哥薩克兵百餘名此地を通過して岫巖の方へ向へました又九月頃同兵三百
餘名此地を通過して西に向ひましたが其都度金糧を徵發して銅錢一文も呉れませんか
らツマリ徵發にわらずして泥棒に會ふた様なものす實に悪い奴等です

又土城子の土民等の言ふには

昨年七月十日頃哥薩克兵二十五名土官一名が支那通辨一名を伴れて一ヶ月程滞在して
去りました、頻りに此邊の地形を調査して居りましたが村長の徐興詩と申す者へ食糧

の徵發を命じまして代價百餘兩のものをたつた十兩しか拂ひませんでした實に悪い奴
等です

又大鷄窩舖の土民の言に曰く

昨年七月頃測量の爲め哥薩克兵三十騎程來りて一ヶ月餘山上に露營して居りましたが
其後大孤山の方へ去りました其後暫く見なせんでしたるが本年五月一日又十六名の露
兵と士官一名が通譯清人一名を連れて安東縣より來り皮子窩へ向つて去りましたが何
れも金品を奪て行かるゝには困ります

又莊河邊の人民の言に曰く

此處の巡捕隊長は候維山と申しまして巡捕も十人許り居りますが其携帶する銃は皆露
西亞の焼印のある銃で奉天將軍から下渡されました焼印のなきものは露兵から直ぐ没
收されて罰を受けます昨年と一昨年中は露兵が此山上を測量して歩きまして一ヶ月程
此地に滞在しましたが今年は二三十騎宛断えず通過するのみで滞在はしませんが其滞
在中の乱暴にはイヤハヤ困つて終つた實に悪い奴等です

其他劉家屯には露兵十二名駐屯し灣子山の頂に望樓もあり、皮子窩には哥薩克兵一中隊巡查十四名ありて民政廳(撫民政府衙門)の長官を大尉タウスと申し者にて又日本醜業婦四名あり又亮甲店の南十清里廊家嶺に哥薩克兵三十名士官一名駐屯し金州には十二聯隊の歩兵七十程駐屯し大尉プロフ指揮し哥薩克兵半中隊居り山上に山砲四門を据て砲兵三十名程居るうふでありますか何れも異口同音に略奪を唱へ惡兵乱暴を絶叫して居りますすが實に滿洲人が可愛そふであります、夫で尙ほく日本軍人の正確にして義心に感じ慕ふて居るのであります

十一、旅順口の防備

露國の達東半島及び滿洲占領は恰も米人の玖馬に於けるが如く其性質に於て全然永久的の者たるは疑を容れない所である、旅順口の防備は實に其確証にして諸般の設備堅牢を盡したるは『ダブルター』のそれと拮抗し得る、今や附近土着民の家屋は悉く破壊されて露國軍隊の兵舎に充てらるゝ等軍事上の諸經營は露國が如何に此軍港を重大視せるかを見るに足る、就中防備の堅牢を極めたるは港口兩端の堡壘にして北方に十四万尺南方

旅順口の防備

に四万二千尺の間長蛇の如く横はりたり是れに數個の重砲を裝置し堡壘の前部には溝を穿ち柵を横たへ壘上には絶へず哨兵の往來せるありて嚴に外來人の侵入を防かしめつゝあるのだ、そして右二大堡壘の一端に連結するに市街各小丘に散在せる所の砲臺を以てし堡壘の入口には四個の六十三噸の後裝砲及數個の速射砲を裝置し海岸には水雷艇數隻を繋留し採海燈發電所を設置しある右二大堡壘の外に港灣入口の左方には長く防波堤を作つてあり幅は一哩長さは二哩にして自然の石堤なれば云ふまでもなく強固にして之に水平線上一呎の高さに於て七個の速射砲を配置し此處にて外海より襲來する水雷艇を撃退するの準備に供ふてある即ち前記二大堡壘に依りて港灣附近の敵艦を撃滅し更にこの防波堤に依りて水雷艇其他の入港を扼守せんとする準備である、又此防波堤の右方に巨大なる石造の船渠ありますが一等戰艦十隻以上を容るに足る位であります、又船渠背部の陸上には八十噸砲を据付てあり船体修理に要する二三の工場は亦其傍に建設されたり造船所は目下着々事業を進行してありますすが此旅順口は軍港としては主要なるものなることは勿論であるけれども露國が經營せる此堅牢なる防備を除きますれば其他に於

ては殆んど取るべき所がありませぬ市街の汚穢不潔なることに至つては到底普通人の永住する所とは思はれませぬ、家屋は漸次西洋風に改造されて居りますけれども一体に丘陵多くして道路は凸凹で日中は例の砂塵が昇騰して面を向くへからす左れば近頃は水道事業を經營して頻りに清潔法を行ひつゝ居りますけれども所詮旅順口は居住の地所としては適當なる所にてはありませぬ、唯軍港としては美望も致します天險に加ふるに人工を以てす露國が此地を鉄壁と依頼するは固より當然の事であるうか、此工事に於ても全然露國にて建設したと云ふにあらす清國政府が永年膏血を注ぎまして建設したのであります

備防の口順旅

ますが明治二十七八年我國の爲め占領せられてありましたが清國も余りに可愛想であるから我國は之を清國へ還附致しました處清國の豚殿は意氣地がない處から露國に貸與したと云ふ頓間な話であります我々が占領致しました當時よりは其後露國に於て彼れ是れ修理を加へ或は増築も致したる箇所もありますから一寸お話を致して参考迄に……………。

露西亞觀察談終

附 錄

一、黑鳩公來る

口には文明を唱ひて心は野蠻である、口には平和を唱ひて行動は戦争である、是れ露國の主義なる乎、曩きに「ニコラス」二世陛下登極未だ幾程ならざるに陛下は万国平和會議の主唱者となつて列國に照會し特に其大官を派し列國の使臣とハイダに會し人類一般の平和保持の爲め大に盡す所あらしめたり、而して其會議の結果は陛下の聖旨に叶ひしや否やは素より予の知る所にあらず、然れども其平和主義は眞に仁愛心より出でたる者なれば彼の侵略主義は斷然改俊せざればからぬ等なるに露國は却て益々侵略を事とするの實況を現し居れり彼の北清事件以來露國は滿洲を徹兵せず條約を無視して傍若無人の舉動を爲すつゝあり加之ならず近くは韓國にも亦手を出して居るとは實に平和を犠牲に供する者と謂はねばならぬ、露國は而かも文明國に列し強國に伍し且つ平和の主唱者たるにも拘らず 如き事を敢てするとは實に列強國を欺きて其間に或利益を獲得せんとす

る眞意なるは疑ふべからざる事實なり、而して其行爲たるや恰も夜盜強賊が紳士ハイカラに化して世人を欺かんとするが如し其狡奸邪智實に驚くの外なし、而して世人其暴行を戒めんとするに際し彼の陸相黒鳩公平然として日本に來れり、公の我國に來遊せしは善乎惡乎予叢素より之を知らずとも彼の國の政界上又彼れが生質上より考ふる時は決して我國の山水明眉を樂しまんと欲して來るにあらざるや必せり、是故に世論紛々其期する所を知らず然るに公は悠々然として我國を去り旅順會議をして一層世人の目を注がしめたり、旅順會議は如何なる事を決議せしや知る能はずと雖も是が善となるか惡となるかに就て諸先生方の説の二三を擧ぐれば左の如し而して其論の可否は讀者諸君の判斷に任す

二、近眼氏の露國評

予は今度西洋を廻はつて來た其處で物質の文明でも公德でも金力でも英國が一番である佛國は英國から見ると餘程劣つて居る獨逸は又佛國よりもズット落ちて居る、露國と來たら日本より大部劣等た面積は日本の四十倍で人口は三倍あると云ふと如何にも聽か

耳が良いが扱て其實質はドーかと云ふと凡てが我國より非常に劣つて居る、先づ面積から云ふと其一部分たる露西亞本土は平地で肥ては居るが其れとても氣候が寒いから幾らも農産物は出來ぬ、而して其大部は砂漠や雪積地であるから何にもならぬ、之に反して我國は地味は良し氣候が佳し水流交通が便であるから丸で比べ物にならぬ、之を譬へて云ふと北海道の山奥の土地と都會の土地程の差がある其れであるから縦令へ五十倍にしても百倍にしても之を地價に換算して見ると實に我國の十分の一にも當らないのである其れから人口に就て言ふと露西亞本土は大農制であるから大地主と小作人として社會の中堅たるべき中等社會が缺けて居る小數の大地主は成程文明の教育も受けて居る大多數の小作人は恰かも昔日の奴隸と撰ぶ所がない其れであるから國力の發達杯とは甚だ覺束ない況して其大部分は被征服の亡國民や遊牧の民である而して露國軍隊は此小作人から出て居る兵卒を以て編成して居るから我國の軍隊とは丸で比較にならぬ我國の如く四千万同一種族で同一の忠愛心を以て保有し居る國民とは丸で遠つて露國は各種族の集り者であるから忠愛心などは少もないのである

露國陸相黒鳩公は釣が好きだと云ふが此釣は魚を釣るのでない、昔日の大公望然として人間……大臣と云ふ大きなものを釣るので其証據には鹽谷で垂釣中瀬戸内海を出入する商船軍艦を算用して神戸港の繁盛の實況を断定した統計に示す二億以上の貿易額も虚でない」と松方幸二郎氏に語つたそふだ、鹽谷垂釣間に彼れの胸中に畫策せるもの豈只此船舶出入の算用のみならんや彼れは世界併呑主義のペートル大王の只一の臣下なりグ氏は細心密意の偵察眼を以て居る彼れは川崎造船所松方社長に問ふて曰く此造船所では商船ばかり造るのであるが軍艦はどの位のもが出来ますか？彼の二週間の日本滞在中此の如くて上下四方の偵察を爲し遂げ悠々然と立去れり彼も亦人傑なる哉

黒鳩公は我國に來遊して第一に感じたのは土地の整備してあるのだそうだ、成程そうかも知らぬ彼の國土は茫々として録な草木も繁茂せず耕地もあるなしの様な國から來て耕地整然たる我國、山は人造の如く高からず低からず而して青々として繁茂してある、草木に美花の馥郁、彼等に在ては龍宮にでも遊びたる如く仙園に遊びたる如くなるは必然であると思はる、次には觀兵式だそうだ、之は殆んど恐泣したらしかつた

近眼氏の露國評

村田少將の露國陸相談

長崎の稻佐と云へば露國專有の居留地で露人とは頗る緑の深い土地であるが黒鳩公も長崎に趣くや直に稻佐なる露國人の菩提寺悟真寺に赴き露人の墓を吊し接待役たる村田少將を顧みて稻佐の我國と非常の關係ある歴史を有することは常に聞き及びたるが今其實境を踏んで益々其念を深ふせりと語るや村田少將はスカサズ稻佐由來貴邦と深縁あり但た貴邦一度旅順に據りてより稻佐の人民は頗る落莫の不幸を嘆せりと椰諭せしには流石の黒鳩公も眉を擡め否と予は旅順に赴きアレキシーフ總督に會して必ず稻佐の繁昌を回復せんと

二、村田少將の露國陸相談

馬關からの汽車中では將軍は能く我國内の狀況に注意して居られ最も農業の發達には感した様で何れの國でも農業の進歩を見れば其國の進歩の程度が解ると言はれて我國の國狀に關しても會得した所があつた様だ歸路には大阪へ立寄られ博覽會を見物せらるゝ筈じやから益々我國の事も解るだらう

將軍は魚釣が大好きで此樂は何にも代るとは出来まいと云て居り閑暇さへあれば繪を垂

談相陸國露の將少田村

るゝことを考へて居らるゝ若し將軍を誤るものがあれば恐く此釣癖だらうと思はるゝ位である予輩と彼得堡に居た頃から此事を知て居たから馬關でも着かるゝや否や予輩から侷めて半日魚釣に出掛けた昨日(十二日)も着京せられてからプログラムだけの事を済ました後で夜に入り離宮で客を招かれ予輩も招かれたが其間に一寸の閑暇を見出し急に釣を呼で綸を垂れ此位な(少將此時両手の食指にて其長を示し見るに約一尺位)鰓魚が釣れたので大に満足せられて居た將軍はフィンランドに別荘が在て年々其處へ出向かれて湖水で鮭を釣るを樂として居らるゝ今度歸らるゝ時分には日本の釣道具一式を求められて持て行かるゝ筈で予輩も之を勸めて置た日本の釣は中々進歩して居るからなア

將軍は平生意を舞生に用ゐて居る大概西洋の上流社會では朝寢が普通の習慣に爲て居るが將軍は朝も早く七時には起き鐵棒などを以て運動を行らるゝそれから事務に執掌するのである先生土耳其斯坦征伐及び露土戦争の際に四箇所程負傷せられて居る相なが其爲めに別に健康に影響を及ぼすともなく露國のアノ大軍を統理する爲に種々な面倒を見て極忙しいにも拘らず何の障もなく行て往けるのは全く平常の舞生其宜しきを得て居る爲

談相陸國露の將少田村

將軍は食事の少ないのを好み今度も予輩に注文して頻に皿敷の少なからんことを希望して居らるゝので予輩も其言に隨て注意をして居るそれに就て面白い事がある露國宮中に在て御陪食の際は將軍許は特に皇帝から早歸りを許可せられて居り宴會ならざるに亘くも身を起して退席せらるゝ、予輩も彼得堡で宮中の御陪食に列した時將軍の早起ちを見て初は妙に思つて居たが後に將軍が斯る特權を得て居られ皇帝も笑て之を許されて敢て怪まないと云ふとを聞いてうれで成程と了解したことがあつた

將軍は煙草も少しは喫ふ酒も少しは飲める讀書は餘程好きで汽車中でも見物談話の間にはチヨツとと書見をして居られた又其舉止は鷹揚であるが一躰に中々快活で云は

いチヨクな人で随分面白い談話が出来る

今まで談したのは將軍の逸事であるが……まだ一つ面白い事がある將軍が今度の旅行にニコリスク蒲攔斯德に近い處……と行かれた時其地の射擊會の春季會に出られて射的を行られ其處で二等賞のメタイユ(賞牌)を得られた事である將軍は最も射擊が巧い相で久

し振りて試て見て中らなかつたといふが……そうだらうよ大臣になられて忙しくてソ
 ナ事はして居られまい……其時三百發撃た相な恰度一緒に行つたのが北清事件の時司令
 官をして居られたリチヅイツチ將官でこれは中々巧者な方だ相なが將軍と競争でナニ負
 けるものかといふ勢で固くなつて一生懸命行つて居た相なが扱愈々點檢と爲てリチヅイ
 ツチ將官のは的には一つも中つて居らずイヤ大層失望した相なそれに引替へ將軍のは善
 く中て居て二等賞と爲たので大に喜ばれ其時に渡されたクロバトキン將軍に二等賞牌を
 與ふと書てある賞状をメタイユと共に携帶して持歸るといふて居らるソナ風で中々敬
 服すべき所が澤山あるマア今日は此邊にして置かう

三、東北地方と黒鳩公

▲可兒大佐の談▼

日露戦争は早晚必ず起るべき事件にして若し日本が今日に於て之を避んか、遂に好機の
 捉ふべきなきに終らんのみ
 旅順大連の防備は日清役後遼東還附の當時に於て至緊至要の部分は悉く破壊して今後數
 十年を経幾十万の資を投するにわらずんば到底能く恢復し能はざる迄にして以て還附し

たりき、然るに一旦露國が之を租借するや如何なる程度に其の防備を進めたる乎其地駐
 留の友人の報する所に依るも之を清國所有の當時に比する時は實に數倍の發展をなせり
 と云ふ其他百般の事物目を追ひ月を進むるに従ひ完備し倍々我をして不利の地に立たし
 ひるの形勢あり是れ予が今日を以て日露開戦の好機なりと斷する所以の一なりとす
 由來露西亞は法を以て律し口舌を以て説くを得るの國にあらざると建國以來彼が歴史の
 明示する所なり近くはクリミア戦争に於て之を見る英佛は口を揃へて所謂口舌干渉を試
 みき而も彼れ露國は頑として毫も顧慮する所なかりき遂に英佛は敢然として宣戦を布告
 したり、然れども猶ほ露國は屈せざるなりき、遂に一の要地を占領するに及んで即ち
 直接干渉を蒙るに至て始めて白旗を揚げたりしにわらずや、是れ露國の所謂先天的の慣
 手段にして口舌干渉の彼には更に効果なきを知るに足るべし一言にして之を云へば彼は
 殆ど下等動物と同じく云ふて聽かするも何の益なき國なり只一の鐵拳を加ふるの手段め
 るのみなり是れ我國の決心期を實に今日にありと斷する所以の二なり
 以上の理に依て今回彼をして滿洲を撤退せしめんと欲せば英國同盟頼に足らず米國の如

素より然り唯有効なるは吾の威力干渉一あるのみと信す然るに不孝にして事茲に出て
ざらんか雷に滿洲の撤兵を敢てせざるのみならず進んで之を占領し次て遼東浦蓋間の聯
絡を取らんとして朝鮮を掌中に入れんと明かなり、事若し茲に至らば我が日本の万事は
全く休止すべきあるのみ、而して露國は果して此際如何の手段に依て如上の慾望を實現
せしめんとする乎是亦大に考ふべき問題なりと信す、予は之を去月來朝したりし陸相ク
ロバトキンの行動に依りて判ずる所あらんと欲す

東 北 地 方 と 黒 鳩 公

露國陸相クロバトキンの來意抑も如何ん是れ即ち我邦人の銳意知らんと欲したる所なり
き而して予は彼を以て全く我國情の偵察に來れるなりしを信す即ち本邦駐劄の公使は探
俗や諸方面より發し來れる報告を彼が親しき見聞により確めん素志願望なりしとを信す
然り彼の來朝は全く我國の偵察なりき、知らず彼果して何物を捉へ歸りしや公の大坂に
着したる時予は偶々博覽會見物の爲め其地にあり親しく彼れの行動を見聞するを得たり
一行十名許りにて其内三名は始終隨從せしも他の五六名のものに常に室を異にして同乘
し居れり彼が大坂より東京に來れる際も予は竊に其跡を追ひ些か偵察する所ありしに其

日 露 開 戦 の 利 害

横着なる暴戻なる舉動實に一驚を喫したりき、思ふに彼が我が日本を見ると恰も沖繩の
一孤島にでも對するの想ひありしなるべし、彼が東京を無言無挨拶の儘去りしと云ふも
即ち是が爲めなるべし而して彼が東京に在るや竊かに隨行の一人を我東北地方に派して
偵察せしむる模様あるより予は竊かに之が偵察を期せり果せる哉彼は瀛車にて我仙臺に
來り暫時下車して又上車し再び青森方面に向ふを確めたりき

思ふに彼は斯の如くにして我全國を通じて偵察したるなるべし怖ろしくも亦機敏なる仕
方ならずや、一行の服装極めて簡單極めて疎末なる一事また以て其意のあるを知るに足
らんか

以上の如くして彼れ去れり、知らず彼れ果して如何に我が日本を觀察して去りし乎、呼

四、日露開戦の利害

(某海軍將校の觀察)

露西亞を以て世界無類の好戦國と思ふ事の大に間違つて居る事を知り彼が財政上の實狀
は容易に難を他國に構ふる事能はざる真相を知悉せる人と雖ども近頃の滿洲問題に就て
は少しく其平生の觀察に背いて露國を以て全く戰爭を賭して目下の經營を行つて居るも

日露開戦の利害

の如くに推察して居る様に見ゆる憐むべし彼等亦露國の真相を誤解し居るのである。昔に大蔵大臣のウヰテのみでない露國の政治家中少しく自國の狀態に通じて居る者は孰れも戦争を欲しない世間では目下來朝中の陸相クロバトキンをして頻りに戦争好の如くに言傳へて居る好んで軍人に成る程の者が戦争の嫌な事も無らうし功名心に富む少壯士官等が誰でも敵手に戦争がして見たいのは有勝な話して是を統率する者が口に主戦論を唱へて巧みに部下を統轄する事も珍しくない但し此一つ眞面目な主戦論者がある是れは現時露國の大憂患なる軍人の腐敗を一掃し其精神を根本から改めんが爲に戦争の止むべからざるを主張する者で論は面白いが到底實行は出来さうでない

或は近年東洋に於ける露の海軍力の大増加と數年來の海軍擴張とを以て彼に異志あるの證左となす者がある成程聞けば當時歐羅巴で製造中の戰艦巡洋艦等は出来上り次第東洋に廻航するのだと云ふ斯く巨大なる海軍を東海に浮べ日本をして涙を飲んで指を咥へざるを得ざるに至らしむるは決して戦争を好むが爲めでなくつて、即ち彼が「戦はずして勝つ」の最良策を執るのである文明の戦争は多くは器械材料の精粗多寡に依つて決せ

日露開戦の利害

らるゝもの我國の軍人其歴に稀世の勇ありとも分量の上に於て全く敵はない喧嘩を強てする事はあるまい是れ露國政治家の豪い處であらう然らば戦争は全く出来ないか日本は到底露國の敵に立事は出来ないか否大いに否此に精確なる事實に基いた確乎たる議論がある

徒らに將來の事許り考へて現在の事情に通せざる政治家は國を誤る日露間の宿題は寧ろ今日に於て決すべきのもではあるまいか文句は付け次第辭令は澤山ある要は將來に於て或は吾に不利あるべき戦争の今日に於て利益あるや否やと云ふ事である試みに其要項を比較し見んか

日露戦争の勝敗は主として海軍の戦闘に依て決せられる成吉思汗の時代ならぬ今日到底大軍を帥ゐて亞細亞から

歐羅巴へ攻入る

事の出来ぬ如く山多く水田多く精英の陸軍と熱誠の國民とを有する我國は亦他國兵の侵入を許さない是は兩國軍人の知つて居る處である況や海權を制せざる前に陸兵の輸送を

爲すべからざる事は近世戦術の原則である海軍の勝敗は則ち兩國の勝敗である
然らば此に兩國の海軍力と併せて他の二三要件とを比較して今日に於ける兩國の位地を
研究しやう

先づ海軍々人に就て見やうか將官は我邦でも近年は新教育を受けた人が段々居るが露の
將官の多く大學校卒業で悉く皆長年の船乗たるに比べて如何であらうか然し敢て劣ると
は云はない大佐以下上長官は大差はない或は少しは此方に美しい者が居やう大尉以下の青
年士官は其機敏なると智識あるとに於て日本の方大に勝る下士以下の無論此方が美しい遠
方からの寄せ集者たる露の其に比べて規律より教育ある日本の士卒は遙かに優れて居る
五、滿洲問題と七博士の意見書
富井政章、戸水寛人、寺尾享、金井延、高橋作衛、中村進午、小野塚喜平次の七博士は過日桂
総理大臣を官邸に訪問し滿洲問題に關し意見を陳述し覺書を提出したる由にて概要は左
の如し

大凡天下の事一成一敗其間髪を容れず能く機に乗ずれば禍を轉じて幸とし機を逸すれば
幸を轉じて禍となす外交の事特に然りとす、然るに顧みて七八年來極東に於ける外交
の事實を察すれば往々にして此機を逸せるものあり遼東還附の際其の不割讓の條件を留
保せざりしは是れ實に最必要の機を逸するものにして今日の滿洲問題を惹起せる原因と
謂はざるべからず後獨逸の膠洲灣を覬覦するや海弱なる海軍力を以て長日月を費し以て
我が極東に臨む彼の艦隊や顧みて後繼の軍力ありしにあらず進んで依據すべき地盤あり
しに非ず渺々として萬里に懸軍するの有様なりしを以て此の機に乗じ掲ぐるに正義を以
てし臨むに實力を以てせば縦令へ彼れ黠壑の欲望を有するも何を以てか此の正義と此の
強力に抗抵するとを得んや當時若し獨逸にして手を膠洲灣に下す能はずんば露國の又容
易に旅順太連の租借を要求すると能はざりしや明かなり然るに我邦遂巡爲す所なく遂に
彼等をして其欲望を逞ふするを得せしめたるは實に浩嘆の至に堪へず機を逸するの結果
又大ならずや北清事件の後諸國の兵を撤せんとするに際し詳細に滿洲の撤兵に關する
規定を立てなば以て今日露國をして撤兵に躊躇するの餘地を存せしめざりしならん是れ

亦た外交の機を逸したるものと謂ひざるべからず今や第二回撤兵の期既に過ぎ而して露國は尙ほ其實を擧げず此時に當り空しく歲月を経過して條約の不履行を不問に附し若くは姑息の政策により一時を彌縫せんとするが如きとわらば實に是れ千歳の機を逸し國家の生存を危くするものと云はざるべからず噫我國は既に一度遼東の還附に好機を逸し再び之を膠洲灣事件に逸し又た三度之れを北清事件に逸す豈に更らに此覆轍を踏んで失策を重ねべけんや既往は追ふべからず只之を東隅を失ふも之れを桑榆に收むるの策を講せざるべからず特に注意を要すべきは極東の形勢漸く危急に迫り既往の如く幾回も機を逸するの餘裕を存せず今日の機會を失へば遂に日清韓をしわ再び頭を上ぐるの機なからしむるに至るべきこと是れなり、今日は實に是れ千載一時の好機にして而かも最後の好機たるを自覺せざるべからず此機を失へ以て萬世の患を遺すことわらば現時の國民は何を以てか其祖宗に答へ又何を以てか後世子孫に對することを得ん今や露國は次第に其勢力を滿洲に扶殖し鐵道の貫通と城壁砲臺の建設等により漸く其の基礎を堅くし殊に海上に於ては盛に艦隊の勢力を集注し海に陸に勢を倍〇し以て我邦を威壓せんとする

最近報告の證明する所なり故に日を遷延すれば一日の危急を加ふ然れども獨り喜ぶ利下我が軍力は彼と比較して尙ほ些少の勝算あることを然れども此好望を繼續し得べきは僅々一歳内外を出でざるべし(若し夫れ其軍機の詳細は多年研究の結果之を熟知するも其機密に關するを以て茲に之を畧す)此の時に當りて等閑機を失はば實に是れ千秋の患と遺すものと謂はざるべからず

今や露國は實に我と拮抗し得べき成算あるに非ず然るに其爲す所を見れば或は條約を無視し或は馬賊を煽動し或は假裝以て其兵を朝鮮に容れ或は租借地を半島の要地に得んと欲するが如き傍らに與國なきが若し今日已に然り他日彼れ其強力を極東に集め自ら成算あるを知らば其爲す所知るべきのみ彼れ地歩を滿洲に占むれば次に朝鮮に臨むこと火を賭るが如く朝鮮已に其勢方に服すれば次に臨まんとする所問はずして明か也故に曰く今日滿洲問題を解決せざれば朝鮮空しがるべく朝鮮空しければ日本の防禦は得て望むべからず我邦上下の人士が今日に於て自ら其地位を自覺し姑息の策を捨て、根底的に滿洲問題を解決せざるべからざる所以に茲に存す今や我邦尙ほ成算あり是れ實に天の時を得

滿洲問題と七博士の意見書

たるものなり而して彼れ尙ほ未だ確固たる根據を極東に完成せず地の利全く我に在り而して四千有餘萬の同胞は皆陰かに露國の行爲を憎む、是れ豈に人の和を得たるものに非ずや然るに此際決する所なくんば是れ天の時を失ひ地の利を棄て人の和に背くものにして地下祖宗の遺業を危くし後世子孫の幸福を喪ふものと謂はざるべからず

或は曰く外交の事は慎重を要す英米の態度之を研究せざるべからず獨佛の意向之を探知せざるべからずと洵に其の如し然ども清國の態度は大體に於て已に明かなり獨佛の我が邦に左擔せざるは明瞭にして又露國の爲めに其戦列に加はらざるも亦瞭然たり何となれば日英同盟の結果として露國と共に日本を敵とすることと同時に英國を敵となるの決心を要するものにして彼等は滿洲の爲めに此の決心を爲さざるべければなり米國の如きは其目的滿洲の開放に在り滿洲にして開放せらるれば其地主權者の清國たると露國たるとを問はず單に通商上の利益を失はざるを以て足れりとす故に極東の平和清國の保全を目的とせる外交に於て此國を最後の同伴となさんと欲するは自ら行動の自由を羈束するものに外ならず故に米國の決心を待ちて強硬の態度を執らんと欲するは適切の手段にあら

滿洲問題と七博士の意見書

ず若し夫れ英國に至りては只だ應に日英條約によりて其の意志を確むべきのみ該條約の解釋上日本若し一國を敵とするときは英國は嚴正中立を守るの義務あり是れ今更ら交渉を要せざることなり且つ四月八日より今日迄既に二ヶ月餘を経過す此の期間は英國の意志を確かむるに於て已に充分なりと謂はざるべからず英國に對する交渉の時期は既に五六週間の過去に屬す若し更に事を交渉に托して遷延日を曠ふし以て此千載の好機を逸するが如きとあらば天下の恨事何か之に過ぎん論者或は曰く朝鮮は如何なる理由に依りても國の勢力に歸せしむべからず此説又大に可かり然れども朝鮮を守らんと欲せば滿洲を露國の手に歸せしむべからず殊に注意を要するは外交争議の中心を滿洲に置くことを朝鮮に置くとは其間に大徑庭あること是れなり蓋し露國は問題を朝鮮によりて起さんと欲するが如し何となれば争議の中心を朝鮮に置くときは滿洲を當然露國の勢力内に歸したるものと解釋し得る便宜あればなり故に極東現時の問題は必ず滿洲の保全に付て之を決せざるべからず若し朝鮮を争議の中心とし其争議に一步を譲らば是れ一舉して朝鮮と滿洲とを併せ失ふこととなるべし要するに滿洲問題は朝鮮の利益と干聯して論ずる

の必益なく滿洲問題は滿洲問題として解決するを要す滿洲に於て些少且つ有名無實の空利を得るが爲めに朝鮮に於ける我邦の權利を附制拘束し多大の讓歩を爲すが如きは實に現狀より一步を讓て不利の地に退くものに外ならず顧みて法理上より之を論究すれば露國の撤兵は其義務たると言を俟たず而して其撤兵とは單に滿洲の甲地より乙地に兵を移すの謂ひに非ず鐵道の守備隊其ものをも撤退するの意なり滿洲還附協約第二に曰く清國政府は滿洲に於ける統治及行政權を回復するに方り千八百九十六年八月廿七日露清銀行と締結せる契約の期限並に其他條款の堅守を確認し又該契約第五條に遵ひ鐵道及び其職員を極力保護するの義務を負担し又均しく滿洲在留の一般露國臣民及其創設に係る事業の安固を擁護するの責務を承諾す

此條文中に引用せられたる露清銀行との契約第五條を見るに鐵道及び鐵道に使用する人員は清國政府より法を設けて之を保護す云々とあり然らば滿洲鐵道の保護は清國の法に隨ひて之を保護せざるべからず而して清國の法の未だ嘗て露國兵の鐵道を保護することを認めず故に露國が自ら兵を以て鐵道を保護

する是れ條約に基きたるにわらず又法律に據りたるものにも非らず去れば滿洲の撤兵とは滿洲各所の兵も鐵道守備兵も一切之を撤去するの意にして露國は萬國環視の裏に此の誓約をなせしものなり是を以て此の不履行により危急存亡の大關係を有する邦國の最後の決心を以て之を要求するの權利あり故に我邦は銳意此撤兵を要求せざるべからず縱令露國政治家たるもの甘言を以て我を誘ふことあるも滿韓交換又は之に類似の姑息退讓策に出でず根底的に滿洲還附の問題を解決し最後の決心を以て大計畫を策せざるべからず之を要するの吾人は故なくして漫に開戦を主張するものにはわらず又吾人の言議の適中して後世より先覺豫言者たるの名稱を得るは却て國家の爲めに嘆すべしとするものあり噫我邦人は千歳の好機を失ふべからざることを注意せざるべからず又此好機を失はば遂に我邦の存立を危くすることを自覺せざるべからず姑息の策を甘んじて曠日彌久するの弊は結局自屈の運命を待つ者に外ならず故に曰く今日の時機に於て最後の決心を以て此大問題を解決せよと

▲三澤書店發行書目▼

軍人演說軌範

正價金拾錢
郵税金貳錢

兵卒須知

正價金廿錢
郵税金四錢

軍人取扱便覽

正價金貳錢
郵税金貳錢

步兵小斥候

正價金八錢
郵税金貳錢

軍人の心得

正價金五錢
郵税金貳錢

武士道

正價金五錢
郵税金貳錢

兵士の友

正價金五錢
郵税金貳錢

下宿の友

正價金拾錢
郵税金貳錢

兵營みやげ

正價金拾錢
郵税金貳錢

櫻花男兒

正價金拾錢
郵税金貳錢

軍人用文章

正價金五錢
郵税金四錢

軍志願者心得

正價金拾錢
郵税金貳錢

機動演習

正價金十錢
郵税金貳錢

懲罰令俗解

正價金五錢
郵税金貳錢

喇叭譜學教習

正價金十錢
郵税金貳錢

大演習記事

正價金拾錢
郵税金貳錢

機動演習記事

正價金拾錢
郵税金貳錢

雪中行軍隊

正價金拾錢
郵税金貳錢

大 大 大 大
 劍 軍 太 軍
 舞 歌 兵 旅
 樂 樂 の
 菜 旅
 事 兵
 風 紀 衛
 卒 の 血 淚
 酒 保

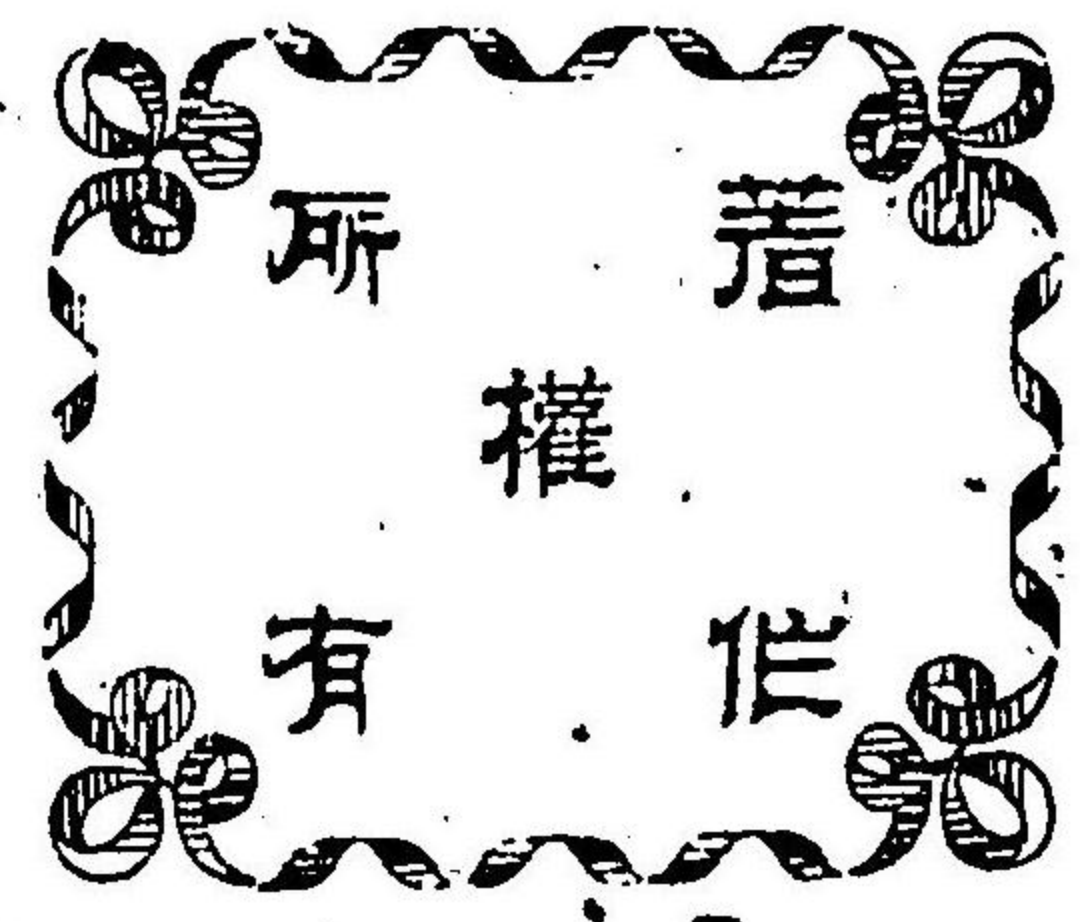
(小本)
 (全) (全) (全) (全)

(全)	(近刻)	全正價	全正價	郵正價	郵正價	郵正價	郵正價	郵正價	郵正價
		金	金	金	金	金	金	金	金
		二	二	二	二	二	二	二	二
		三	三	三	三	五	五	五	五
		錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

弊店ハ軍隊ノ爲メ又ハ軍人ノ利益トナルヘキ圖書ノ出版ハ喜テ發行
 ス故ニ右原稿御著述ノ御方ハ御一報次第早速御相談可申上候也

明治三十六年八月三十日印刷
明治三十六年九月十五日發行

(露西亞觀察談奧付)



編輯者 仙臺市大町二丁目二十番地 三澤好吉

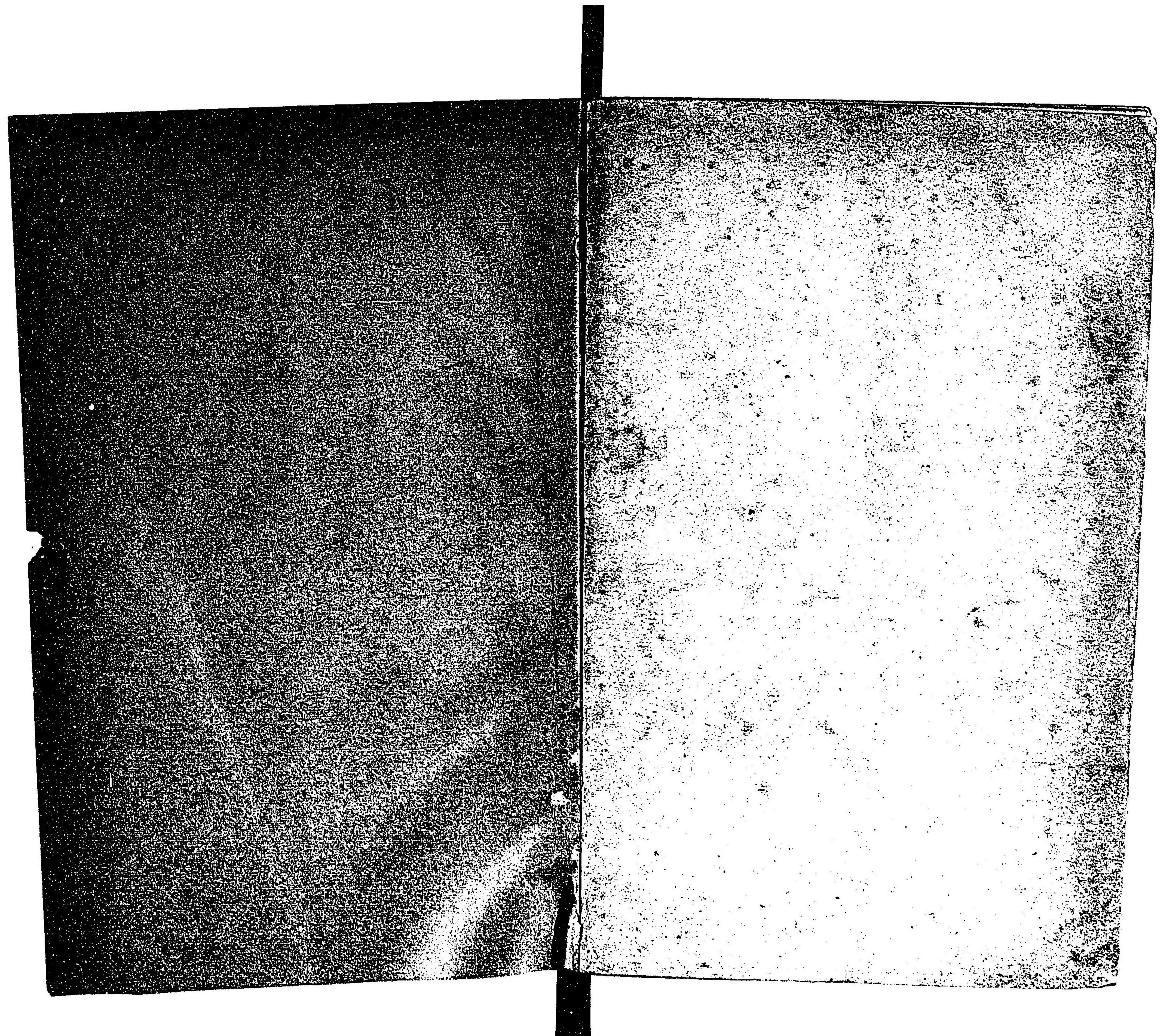
印刷所 仙臺市大町一丁目百二十六番地 鈴木活版所

發行所 仙臺市大町二丁目二十番地 三澤書店

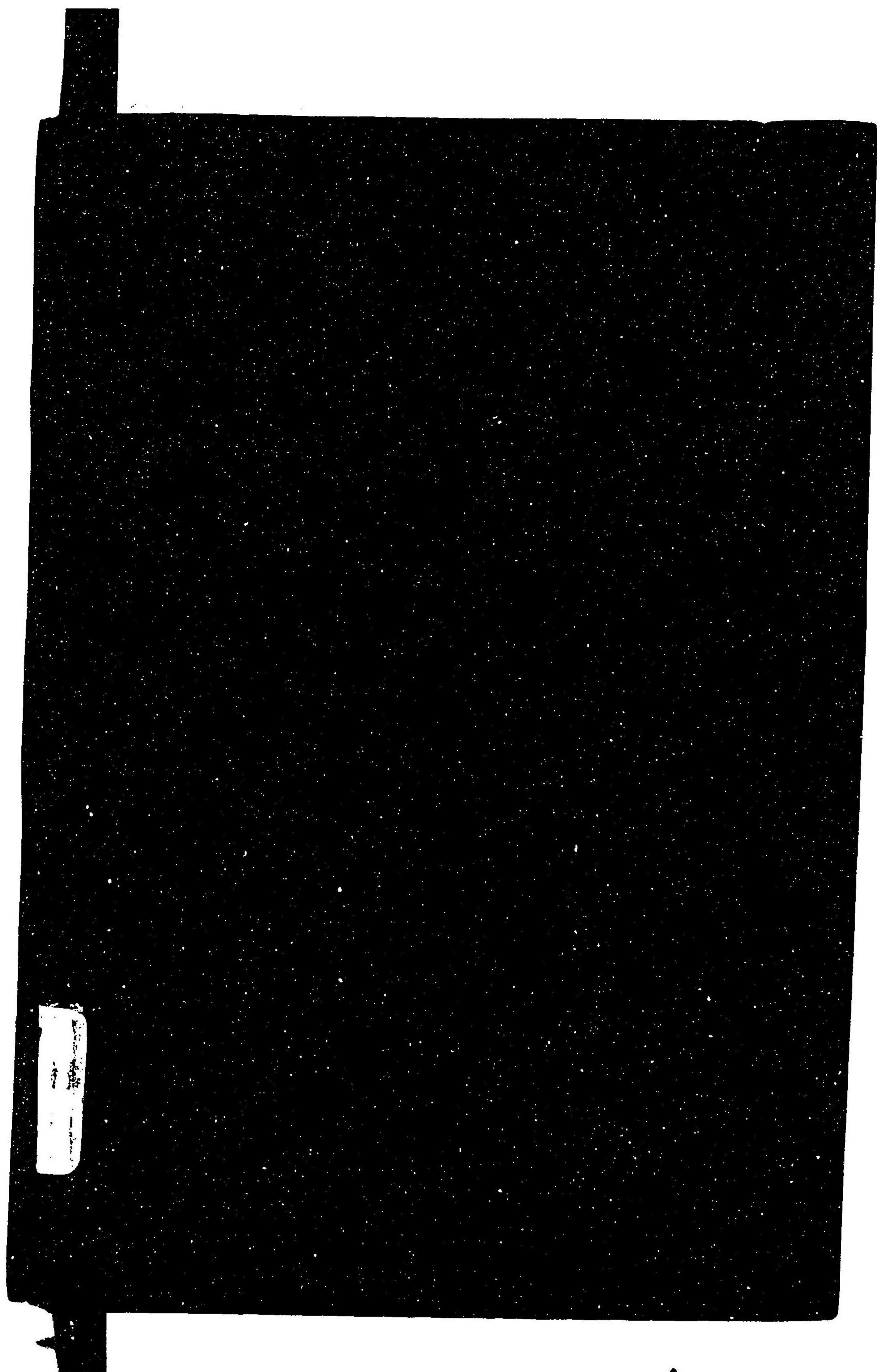
販賣所 北海道旭川二條通七丁目 三澤書店

販賣所 山形市旅籠町 三澤書店

97
84



97
84



97
84

(M)

026874-000-8

97-84

露西亞觀察談

三沢 好吉/編

M36

ADF-0056



